

平成 24 年度

岩手県立博物館

年報

平成 24 年度岩手県立博物館年報



秋篠宮同妃両殿下

テーマ展「2011. 3. 11 平成の大津波被害と博物館—被災資料の再生をめざして—」御内覧
平成 24 年 12 月 20 日（木）

目で見る博物館この1年



県博バックヤードツアー
(第2収蔵庫) 平成24年5月19日(土)



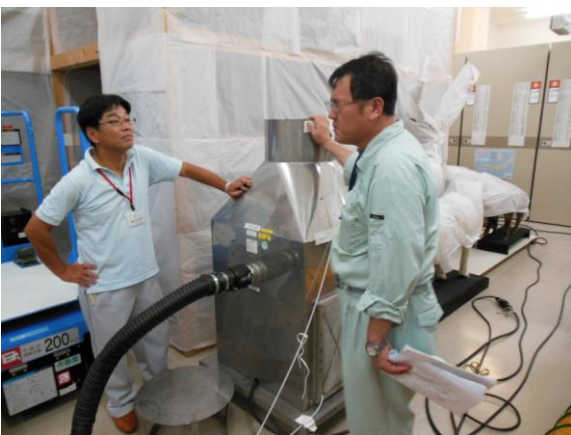
企画展「土偶まんだら」展示解説会
(特別展示室) 平成24年7月15日(日)



考古学セミナー現地見学会
(北上市榊山遺跡) 平成24年8月11日(土)



夏休み子供招待事業 工作
(実技室) 平成24年8月18日(土)



館内くん蒸準備
(第2収蔵庫内) 平成24年9月2日(日)



解説員研修
(北上市千刈遺跡) 平成24年9月7日(金)



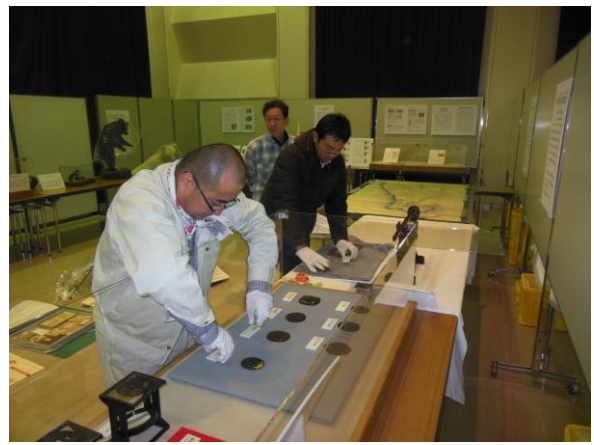
館内清掃作業 兜跋毘沙門天立像
(エントランスホール)
平成 24 年 9 月 10 日(月)



テーマ展「砂～砂粒から大地をさぐる～」
(特別展示室)
平成 24 年 11 月 17 日(土)撮影



第 4 回博物館まつり 石うすひき
(民家) 平成 24 年 10 月 14 日(日)



移動展準備 (軽米町農村環境改善センター)
平成 24 年 11 月 21 日(水)



文化財レスキュー
活動

平成 25 年
3 月 13 日(水)
撮影

目次

目で見る岩手県立博物館この1年

刊行にあたって	1
1. 沿革	2
2. 施設の概要	3
3. 博物館協議会	4
4. 予算	5
5. 事業の概要	
(1) 展示活動	6
(2) 教育普及活動	15
(3) 調査研究活動	27
(4) 資料収集保管活動	36
(5) 総務企画調整	43
6. 文化財レスキュー活動	46
7. 岩手県立博物館友の会	50
8. 博物館利用者入館状況	52
9. 組織及び職員構成	54
10. 岩手県立博物館使命書	55
11. 関係条例規則書	56

刊行にあたって

岩手県立博物館は昭和 55 年の開館以来、県民の学術文化の重要な拠点の一つとして皆様から日頃温かいご支援とご協力を賜っております。はじめに、このことについて深く感謝申し上げます。

東日本大震災津波から 2 年が経過しました。当館では、初年度すべての特別展示を中止し、被災文化財等救援委員会のご指導の下、被災地域の文化財等の救援事業に全力で携わってまいりました。昨年は、特別展示を再開しながら文化財等のレスキュー作業に携わりました。この間、全国の関係機関並びに多くの方々のご協力とご支援をいただきました。特にも 12 月には秋篠宮同妃両殿下がご来館され、作業をご視察されましたことは、職員一同にとりまして大きな励みとなりました。そして年度末には、東日本大震災文化財等救援・修復活動への功勞に対して文化庁長官から感謝状を頂きました。これもひとえに、ご支援頂いた皆様の賜です。あらためて感謝申し上げます。

平成 24 年度の活動の中で、展示活動におきましては、企画展「土偶まんだら」、テーマ展「砂～砂粒から大地をさぐる～」、震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 盛岡「恐竜アロサウルスがやってきた」、そしてレスキュー作業の成果を展示したテーマ展「2011. 3. 11 平成の大津波被害と博物館」を開催して、多くの来館者から高い評価を頂きました。お陰様で、入館者も被災前の平成 22 年度を上回るどころまで回復することができました。

教育普及活動におきましては、講演会、講座、セミナー、観察会、たいけん教室やチャレンジ博物館などの事業を実施しました。新たな取り組みとして、博物館との連携や活用が明示された新学習指導要領が新年度から高等学校においても本格実施されることから、新学習指導要領・教科書と当館の常設展示目録対照表を作成し、学校教育との連携強化に取り組みしました。

調査研究活動につきましては、研究テーマの見直しを行いながら成果をあげ、学術研究集会や各種学会誌上等での発表に加え、当館刊行の『研究報告』等で広く公表いたしました。その成果は今後の展示や教育普及活動で活用されることとなります。

資料収集保管活動におきましても、多くの方々からの資料の受贈をはじめとする資料の収集整理、これらを適切に保管管理しながらの県内外の博物館等への貸出等を行い、資料展観の便を図りました。加えて、資料の生物学的劣化からの防除や科学分析・保存処理も積極的に推し進めております。

さらには、博物館活動を推進する上記 4 つの活動がよりスムーズに進められるよう中期計画(平成 25～29 年度)を作成しました。また、ホームページのリニューアルを行い、より最新の情報を発信して来館者の利用の便を図っております。平成 25 年度も引き続き県民の皆様方の学術文化活動の支援を図ってまいりますので、今後とも温かいご協力とご指導をお願い申し上げます。

最後になりますが、当館を取りまく社会情勢の変化に対応し、年報の作成を PDF 化し、ホームページでの閲覧に変えさせて頂きましたので、ご理解をお願いいたします。

平成 25 年 4 月

岩手県立博物館長 中山 敏



1. 沿革

昭和48年	4月	県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係(3名)を設置
昭和48年	5月	県庁内に、副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
昭和48年	6月	博物館資料調査委員(委員22名)を委嘱
昭和48年	7月	民意集約機構として博物館建設調査協議会(委員25名)を設置
昭和48年	8月	展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会(委員20名)を設置
昭和49年	4月	県教育委員会事務局に博物館開設準備室(庶務係、学芸班10名)を設置
昭和50年	5月	博物館建設調査事務終了に伴い、引き続き県立博物館建設委員会(委員6名)を設置
昭和51年	1月	県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
昭和51年	10月	建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所(東京都)に決定
昭和52年	4月	博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所(総務課、学芸課、工務課、17名)を設置
昭和53年	6月	起工式
昭和53年	10月	展示工事着手
昭和53年	10月	民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
昭和54年	11月	定礎式
昭和55年	7月	博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館と決定
昭和55年	7月	コンパニオン(非常勤専門職員15名)任用
昭和55年	10月	岩手県立博物館設置
昭和55年	10月	落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式(4日)
昭和55年	10月	岩手県立博物館開館(5日)
昭和55年	10月	日本博物館協会加盟
昭和55年	10月	全国科学博物館協議会加盟
昭和56年	3月	第1回岩手県立博物館協議会開催
昭和59年	10月	皇太子同妃両殿下ご来館(14日)
昭和60年	4月	財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
昭和62年	5月	入館者100万人を突破(1日)
平成1年	3月	地質総合展示室改修完了
平成2年	5月	岩手県立博物館友の会設立(1日)
平成2年	7月	歴史古代展示室改修完了
平成2年	10月	開館10周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
平成3年	2月	入館者、県民人口を超える(14日)
平成3年	11月	入館者、150万人を達成(1日)
平成3年	12月	歴史中世展示室改修完了
平成4年	1月	コンパニオンの名称「解説員」に
平成5年	2月	秋篠宮同妃両殿下ご来館(5日)
平成5年	3月	現勢展示室イヌワシの山改修完了
平成5年	10月	国民文化祭いわて'93記念展「じょうもん発信」開催
平成5年	10月	皇太子殿下ご夫妻ご来館(10日)
平成6年	1月	「中尊寺黄金秘宝展」開催
平成6年	12月	屋上改修工事完了
平成9年	12月	文化振興事業団10周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
平成9年	4月	重要文化財勸告出品館となる
平成9年	2月	重要文化財公開承認施設となる
平成9年	7月	入館者、200万人を達成(16日)
平成10年	1月	ハイビジョン室設置
平成12年	3月	企画展第50回目を迎える(「岩手の経塚」)
平成12年	10月	開館20周年記念特別企画展「北の馬文化」開催
平成13年	5月	近代美術展示閉鎖(美術館へ移管)
平成14年	3月	マメンキサウルス(モシリユウ)全身骨格複製標本展示
平成18年	4月	施設・設備等の管理部門に「指定管理者制度」導入。岩手県文化振興事業団が指定管理者となる
平成21年	1月	入館者、250万人を達成(10日)
平成21年	4月	指定管理者として(財)岩手県文化振興事業団が2期目の指定
平成22年	1月	外部階段改修工事完了
平成22年	10月	開館30周年記念特別企画展「いわての漆」開催
平成23年	3月	美化事業完了
平成24年	12月	秋篠宮同妃両殿下ご来館(20日)
平成25年	1月	岩手県議会商工文教委員会現地調査(22日)

2. 施設の概要

(1) 建築の概要

〈総工事費〉 44億3,000万円

〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

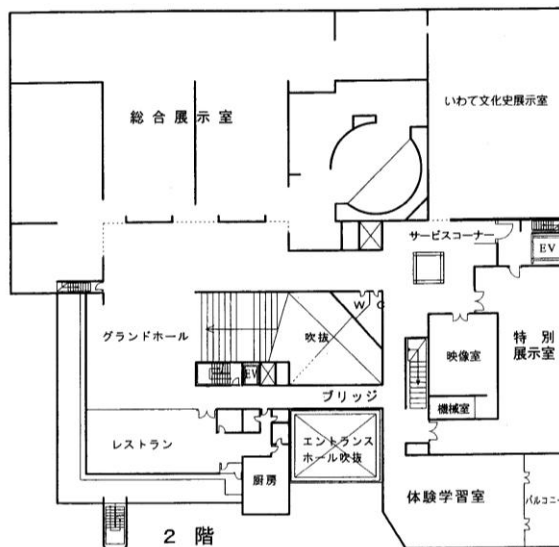
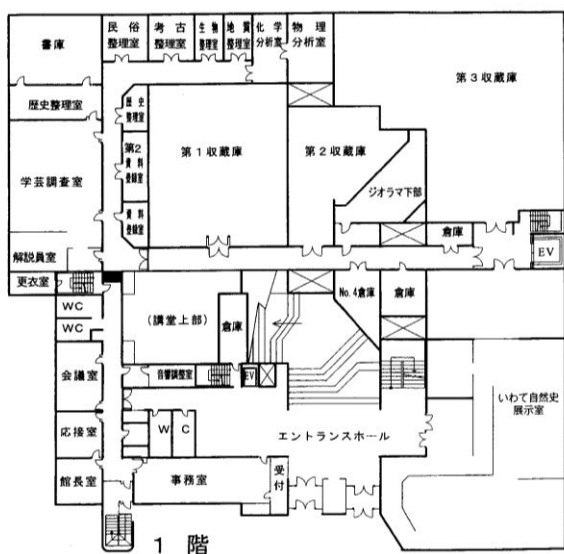
〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78㎡ ●建築面積 5,192㎡ ●延床面積 12,051.56㎡

(2) 配置図・展示室等平面図



駐車場面積

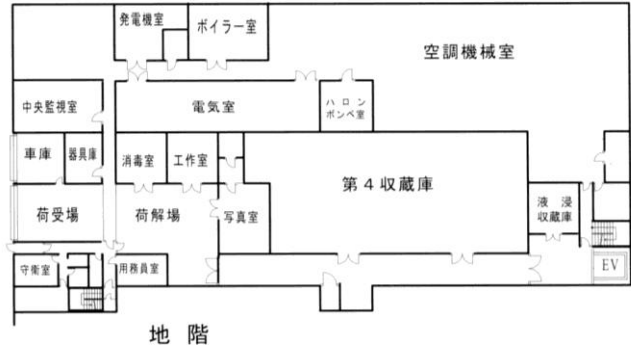
第1駐車場	2,804.4㎡	普通車62台
第2駐車場	1,251㎡	普通車12台、大型バス14台
高齢者等用駐車場	410.9㎡	普通車8台
身障者用駐車場	93.5㎡	普通車5台



中地階平面図



地階平面図



(3) 各室面積表

部屋名	面積(m ²)
空調機械室	766.09
発電気室	50.26
蓄電気室	9.71
ボイラー室	64.36
中央監視室	64.67
電話交換機室	8.89
電気室	142.54
ハロンポンベ室	37.86
消火栓ポンベ室	17.14
エレベーター機械室	20.52
第4収蔵庫	464.48
第5収蔵庫(液浸)	39.72
エレベーターシャフト	18.24
車庫	38.33
器具庫	25.24
消毒室	37.86
工作室	35.90
暗室	11.91
作業室	4.06
写真室	52.94
荷受場	79.63
荷解場	113.75
用務員室	26.39
守衛室	18.00
宿直室	21.17
湯沸室	3.81
浴室	5.71
便所	6.75
タラップ室	6.75
フォークリフト置場	12.75
廊下・階段・その他	280.32
小計	2,485.75
いす保管庫	98.61
外部用倉庫	20.38
教室	81.07
準備室	22.83
実技室	115.66
便所	29.02
講堂	164.09
効果室	14.50
ホワイエ	68.29
タラップ室	5.14
廊下・その他	232.78
小計	852.70

部屋名	面積(m ²)
いわて自然史展示室	729.27
パネル倉庫	35.56
風除室	3.21
受付	18.56
印刷室	8.50
事務室	116.01
館長室	43.33
応接室	41.40
会議室	64.23
倉庫	14.25
身障者便所	6.47
No.3便所	73.85
No.2便所	39.67
音響調整室	20.84
同上前室	10.28
予備室	32.07
ロッカー室	10.45
女子更衣室	20.55
学芸調査室	236.04
歴史整理室	59.21
書庫	113.36
民俗整理室	35.84
考古整理室	35.84
生物整理室	25.10
地質整理室	25.20
歴史整理室	35.43
第1資料登録室	21.90
化学分析室	41.66
物理分析室	53.94
第2資料登録室	20.72
第1収蔵庫	365.15
第2収蔵庫	188.25
第3収蔵庫	608.38
倉庫	9.18
No.4倉庫	42.69
ジオラマ下部	119.13
グランドホール	133.19
ロビー1	101.79
ロビー2	35.84
階段・廊下・その他	888.10
小計	4,454.53

部屋名	面積(m ²)
総合展示室	1,553.85
県土の誕生	102.35
いわての夜明け	187.60
いわてのあゆみ	743.20
庶民の暮らし	210.00
いわての今	310.70
いわて文化史展示室	489.07
ミニプラザ(1)	210.42
ミニプラザ(2)	129.50
特別展示室	292.20
映像室	124.00
No.4便所	30.11
体験学習室	217.17
厨房	54.93
休憩室	160.08
休憩室便所	10.98
厨房事務室	10.24
厨房便所	4.16
食品庫	6.90
グランドホール	213.66
階段・廊下・その他	618.20
小計	4,125.47
塔屋	133.44
合計	12,051.56

- 展示面積 3,405.56 m²
- 収蔵庫面積 1,665.98 m²
- 学芸調査室 236.04 m²
- 研究室 274.91 m²

3. 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。平成24年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

期日：平成24年11月22日（木）

場所：岩手県立博物館会議室

- 協議事項
- ・平成23年度博物館協議会の意見等への対応状況について
 - ・平成24年度博物館事業実施状況について
 - ・平成25年度博物館事業計画（案）について
 - ・今後の運営方針について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 平成25年6月22日まで）（平成25年3月31日現在）

氏名	職	分野
小笠原 洋子	盛岡市立飯岡小学校長	学校教育 県小学校長会
佐賀 文行	盛岡市立北陵中学校長	学校教育 県中学校長会
須貝 竹志	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
佐々木 訓	岩手県青年団体協議会常任理事	社会教育
柴田 幸榮	NPO法人岩手県地域婦人団体協議会副会長	社会教育
松尾 正弘	(社)岩手県PTA連合会顧問	社会教育
野沢 裕美	小岩井農場展示資料館長	学識経験者 県博物館等連絡協議会
盛川 通正	滝沢村教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
前田 千香子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県博物館友の会
西館 政美	(株)岩手日報社事業局次長兼事業第一部長	学識経験者
名越 利幸	岩手大学教授	学識経験者
遠山 稿二郎	岩手医科大学教授	学識経験者
春日 菜穂美	盛岡大学教授	学識経験者
飯坂 真紀	画家・民俗芸能研究者	学識経験者

4. 予算

（単位：千円）

項目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
管理運営費	175,940	183,612	178,948	179,862	179,923	177,931	174,216	175,957
展示活動費	18,243	18,370	20,753	13,763	17,227	16,120	13,372	17,775
資料収集保管活動費	44,793	44,683	43,032	40,755	41,866	43,020	41,262	40,659
調査研究活動費	5,078	5,042	5,069	5,069	4,012	4,012	4,487	4,811
教育普及活動費	3,993	3,993	3,993	4,504	4,504	4,888	5,465	5,450
計	248,047	255,700	251,795	243,953	247,532	245,971	238,802	244,652
項目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
管理運営費	170,462	—	—	—	—	—	—	—
総務企画調整費	5,243	3,759	4,172	3,945	3,782	5,317	4,471	3,984
展示活動費	11,673	10,074	7,090	10,826	8,115	3,949	7,443	6,619
資料収集保管活動費	40,319	29,894	27,599	21,846	21,983	22,817	20,911	21,109
調査研究活動費	7,273	7,326	7,585	7,276	7,304	7,556	6,921	6,703
教育普及活動費	1,987	1,633	1,683	1,798	1,558	1,616	1,664	1,770
業務管理費	—	37,699	34,282	34,155	33,251	32,439	32,122	32,529
指定管理者事業費	—	127,861	130,034	129,269	132,832	131,395	132,600	130,502
計	236,957	218,246	212,445	209,115	208,825	205,089	206,132	203,216

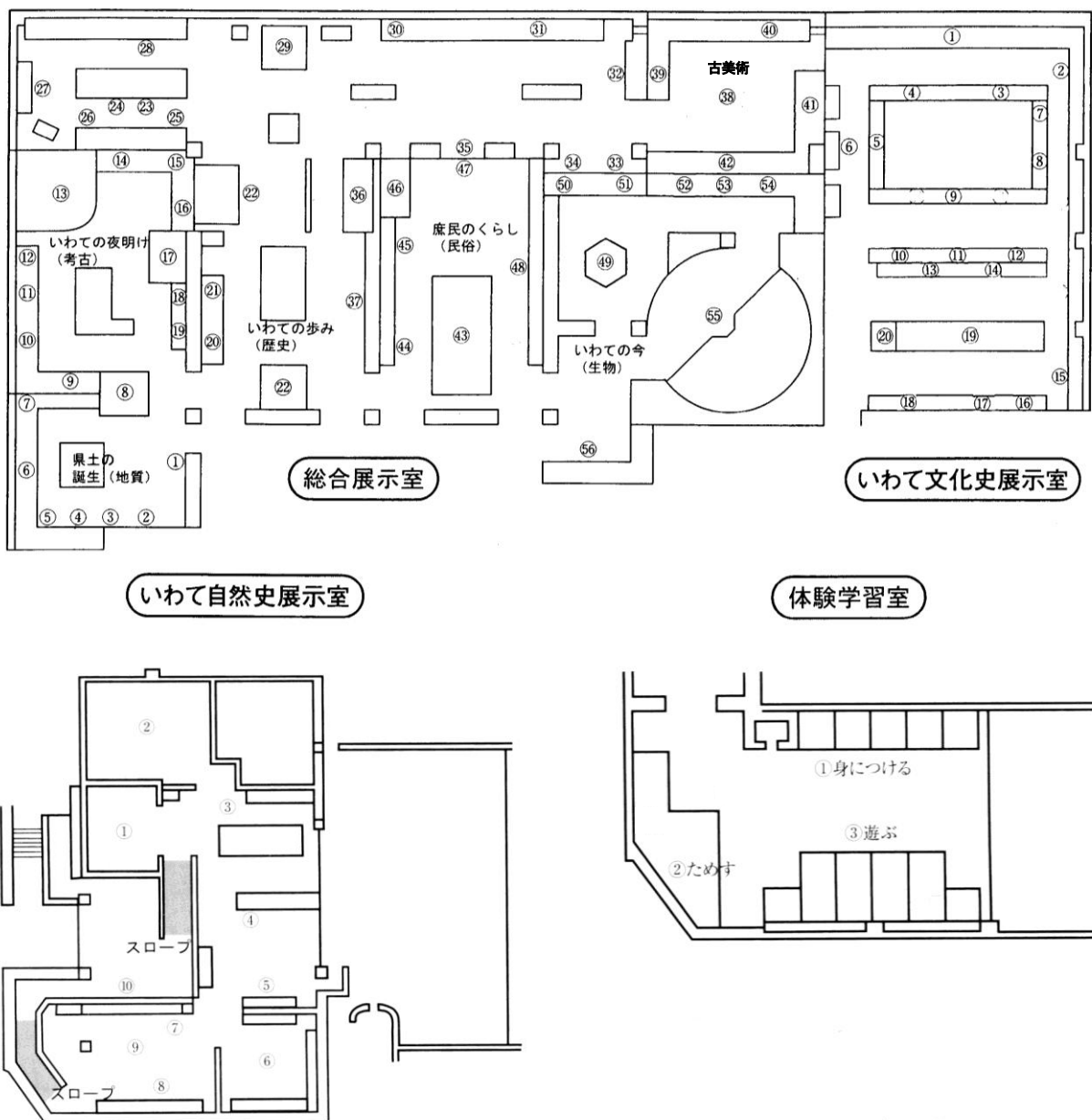
- ※ 1 職員の人件費を除く
 2 予算は、いずれも各年度の当初予算である。
 3 総務企画調整は17年度から項目を起こした。
 4 18年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。

5. 事業の概要

(1) 展示活動

平成 24 年度（2012 年）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、約 22 万点以上にのぼる。その中で、常設展示として展示されているものは 2,000 点、多くは収蔵庫に保管されている。収蔵庫保管資料については、劣化防止、季節や年中行事にあわせた資料の公開といった、展示替えに活用されている。

23 年度に実施された博物館美化事業に伴い、デジタルサイネージが導入された。総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の全部門に関連するより専門的な資料が、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古部門に関連する展示資料が、いわて自然史展示室には地質・生物など自然史に関するより専門的な資料が展示されている。



図(1) - 1 展示室配置図

東日本大震災のため平成 23 年度に実施を見合わせた企画展・テーマ展が再開された。第 63 回企画展として「土偶まんだら」展が開催され、重要文化財を含む県内外の土偶が多数展示され好評を博した。併せて、テーマ展として、「砂」展、「いわての昭和モノがたり」展、東日本大震災に係り当館が主体となり進めてきた文化財等の救出と被災資料の再生を紹介した「2011. 3. 11 平成の大津波被害と博物館」展が開催された。さらに、震災復興支援として国立科学博物館の協力により、当館を含め県内 7 会場で「恐竜アロサウルスがやってきた」の巡回展示会が行われた。従来、(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターと共同で行ってきた「移動展」は、本年度から公益財団法人岩手県文化振興事業団 4 事業所の合同による「岩手県文化振興事業団合同展」として拡充し、軽米町を会場として開催された。

ア. 展示構成

エントランスホール

- ・兜跋毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手山の眺望

総合展示室

●県土の誕生(地質)

1 県土のおいたち

- ① 東北地方の地下断面
- ② 気仙隕石
- ③ 岩手県の地質と岩石

2 いわての古生物相の変遷

- ④ 生命史以前
- ⑤ 古生代の生きもの
- ⑥ 中生代の生きもの
- ⑦ 古第三紀～中生代の生きもの
- ⑧ 鮮新世～第四紀の生きもの

●いわての夜明け(考古)

3 旧石器時代

- ⑨ 氷河期の人びと

4 土器の時代

- ⑩ 岩手の縄文土器
- ⑪ 貝塚の形成
- ⑫ 埋葬と装飾品
- ⑬ 縄文人の暮らし
- ⑭ 大洞文化

5 稲作を始めた時代

- ⑮ 弥生文化と岩手

6 古墳を築いた時代

- ⑯ 拓かれる北上平野
- ⑰ 群集墳
- ⑱ 集落と住居
- ⑲ 生産技術の変革

●いわての歩み(歴史)

7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)

- ⑳ 古代の城柵
- ㉑ 安倍氏の台頭
- ㉒ 奥州平泉とその文化

8 戦乱の時代とその文化(中世)

- ㉓ 文治五年奥州合戦
- ㉔ 豪族たちの動きと庶民
- ㉕ 新しい仏教文化
- ㉖ 九戸政実の乱

9 藩政時代の人々(近世)

- ㉗ 藩政の確立

- ㉘ 凶作と一揆
- ㉙ 盛岡城と町づくり
- ㉚ 産金と製鉄
- ㉛ 南部と馬
- ㉜ 街道と舟運
- ㉝ 藩学と寺子屋
- ㉞ 先駆者たち
- ㉟ 維新前夜

10 進む近代化(近代)

- ㊱ 生活の洋風化
- ㊲ 岩手県の誕生

11 古美術

- ㊳ 鐺
- ㊴ 絵画・工芸
- ㊵ 刀剣
- ㊶ 絵画・工芸
- ㊷ 絵画

●庶民のくらし(民俗)

12 家のくらし

- ㊸ いろいろ
- ㊹ 正月の行事
- ㊺ 庶民の信仰

13 働く人びと

- ㊻ 農村の人びと
- ㊼ 漁村の人びと
- ㊽ 山村の人びと

14 まつりと芸能

●いわての今(現勢・生物)

15 わたしたちの郷土いわて

- ㊾ 岩手県地形模型
- ㊿ 県の鳥・木・花
- ㉑ 岩手の風土
- ㉒ いわての四季

16 恵まれた自然

- ㉓ 山や川の生き物
- ㉔ 森の生き物
- ㉕ イヌワシの山
- ㉖ 豊かな海

いわて自然史展示室

- ① 大地の中の小さな輝き
一鉱物コレクション
- ② 地球史の中の岩手の自然
- ③ 海にもどって大進化
- ④ 海の哺乳類

- ⑤ 空に向かって大進化
- ⑥ 水辺の生きもの
- ⑦ 日本のキツツキと希少な鳥獣
- ⑧ 早池峰山の自然
- ⑨ 大空の覇者ワシ・タカの世界
- ⑩ 写真でみる岩手の自然

いわて文化史展示室

考古

- ① 岩手の土器
- ② 北上山系の洞穴遺跡
- ③ 岩手の石器と鉄器
- ④ 三陸の貝塚
- ⑤ 豊岡遺跡
- ⑥ 柳之御所遺跡

歴史

- ⑦ 中国古印
- ⑧ 信仰
- ⑨ 近代
- ⑩ 板碑
- ⑪ 江戸時代の貨幣
- ⑫ 藩政時代の村

民俗

- ⑬ 南部小絵馬
- ⑭ オシラサマ
- ⑮ まいりのほとけ
- ⑯ 郷土料理
- ⑰ いわての民芸
- ⑱ 南部絵暦
- ⑲ むかしの暮らし大図鑑
- ⑳ 南部の角土俵

体験学習室

- ① 「身につける」
- ② 「ためす」
- ③ 「遊ぶ」

屋外展示

民家

- ・直屋 旧藤野家住宅(重文)
- ・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)

散策広場

- ・植物園(県内の植物等 345 種)
- ・岩石園

イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナーの新規開設

常設展示では、長期の展示による資料の劣化防止、季節や年中行事などにあわせた展示のため、展示替えを行っている。主な展示替えは以下のとおりである。

表(1)－1 平成24年度の主な展示替え

No	展示場所	テーマ	展示資料	期日
1	いわて文化史展示室（歴史）		荒川文助ポスター原画等 17点 中井汲泉南部絵作品 11点 観光絵はがきほか 5点	24.4.17 ～8.19
2	いわて文化史展示室（歴史）	仏像コーナー	釜石市鶴住居小山観音堂 十一面観音菩薩立像、千手千眼観音菩薩坐像、不動明王三尊立像	24.4.19～
3	ミニプラザ（民俗）	季節の展示	馬の郷土玩具 11点	24.5.29 ～7.1
4	総合展示室「庶民の暮らし」（民俗）	季節の展示	花巻人形 10点	24.5.29～
5	総合展示室「いわての歩み」（歴史）	古美術コーナー	岩手の古椀 5点 南部鉄器 2点 鯉は龍になる～登竜門～ 6点 川口月嶺 2点	24.5.29 ～8.19
6	いわて文化史展示室（民俗）	季節の展示	百鬼夜行図 1点	24.7.10 ～8.20
7	いわて文化史展示室（歴史）		荒川文助ポスター原画 5点	24.7.6 ～12.9
8	総合展示室「いわての歩み」（歴史）		金小札茶糸緋二枚胴具足	24.8.28 ～12.9
9	総合展示室「いわての歩み」（歴史）	古美術コーナー	吉野山蒔絵 文台・硯箱 柿に鳥蒔絵 文箱・硯箱	24.8.28 ～12.9
10	いわて文化史展示室（歴史）		紫波町土館新山神社 不動明王坐像・二童子立像 荒川文助ポスター原画 5点	24.8.19 ～12.9
11	総合展示室「庶民の暮らし」（民俗）	まいりのほとけ	孝養太子像（掛幅）	24.9.11～
12	いわて文化史展示室（民俗）	まいりのほとけ	孝養太子像、放光阿弥陀如来像（掛幅）	24.9.18 ～9.26
13	総合展示室「いわての歩み」（歴史）		源勝寺 聖観音菩薩立像	24.9.11～
14	いわて文化史展示室（民俗）	むかしの暮らし大図鑑	どんこ汁、釜敷き、湯たんぼ、豆炭あんか、鉄瓶、豆炭、長火鉢	24.10.8～
15	総合展示室「いわての歩み」（歴史）	古美術コーナー	山蔭焼4点 台焼4点 南部鉄器3点 絵画4点	24.12.11 ～25.4.21
16	総合展示室「いわての歩み」（歴史）		本小札白糸緋二枚胴具足	24.12.11 ～25.4.14
17	いわて文化史展示室（歴史）		荒川文助ポスター原画等18点	24.12.11～
18	総合展示室「いわての歩み」（歴史）	古美術コーナー	絵画1点 刀剣2点 鐺・刀装具76点	24.12.26 ～25.4.21
19	総合展示室「庶民の暮らし」（民俗）		原敬家の祝い膳 2点	24.12.26 ～25.1.27
20	ミニプラザ（民俗）	トピック展 よみがえれ三陸 ～マイワイ	マイワイ	25.1.5 ～25.3.31
21	ミニプラザ（民俗）	テーマ展関連	19世紀初めの仙台藩領気仙郡今泉集落の全体模型（東北工業大学高橋恒夫研究室製作・所蔵）	25.2.8 ～25.3.31
22	総合展示室「庶民の暮らし」（民俗）	季節の展示	くくり雛 13点 土人形（紫波・花巻・附馬牛・高田）14点	25.2.19 ～25.4.14
23	いわて文化史展示室（民俗）	トピック展 新発見もうひとつの天明三年田山曆	天明三年田山曆（蛇足庵コレクション本／個人所蔵）	25.2.26 ～3.31
24	総合展示室「庶民の暮らし」（民俗）		オフナダサマ（船玉様）一式 久慈市山根修験関係文書 2点	25.3.26～

※資料貸し出し等による展示替えは不掲載。

ウ. 特別展示の概要

平成24年度は以下の企画展・テーマ展等を開催した。特別展『恐竜アロサウルスがやってきた』については、国立科学博物館との共催事業である。移動展は公益財団法人岩手県文化振興事業団主催の事業で、当館、美術館、県民会館、埋蔵文化財センターの4事業所が共同で軽米町を会場として行った。「レゴブロックで作った中尊寺金色堂」展は、県南広域振興局の企画による「平泉の文化遺産」の世界遺産登録一周年記念事業の一環として実施されたものである。

表(1)－2 平成24年度の企画展・テーマ展・特別展

	種別	名称	会期
(ア)	企画展	「土偶まんだら」	平成24年 7月14日(土)～ 8月19日(日)
(イ)	特別展	震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム 「恐竜アロサウルスがやってきた」	平成24年 9月 11日(火)～ 12月9日(日)
(ウ)	テーマ展	「砂 ～砂粒から大地をさぐる～」	平成24年 10月 2日(火)～ 12月2日(日)
(エ)	移動展	「いわての宝をみよう ～自然・文化・軽米の遺跡～」	平成24年 11月2日(木)～ 11月25日(日)
(オ)	テーマ展	「2011.3.11 平成の大津波被害と博物館 ―被災資料の再生をめざして―」	平成25年 1月 5日(土)～ 3月17日(日)
(カ)	テーマ展	「いわての昭和モノがたり ～戦後復興の軌跡、震災復興の希望～」	平成25年 3月30日(土)～ 5月26日(日)
－	トピック展	「レゴブロックで作った中尊寺金色堂」展	平成24年 10月 10日(水)～ 10月14日(日)
－	トピック展	「よみがえれ！三陸～マイワイ」	平成25年 1月 5日(土)～ 3月31日(日)
－	トピック展	「新発見！もうひとつの天明三年田山暦」	平成25年 2月 26日(火)～ 3月31日(日)

(ア) 第63回企画展「土偶まんだら」

約1万年にわたる縄文時代。時期や地域によって異なる多彩な土偶が誕生した。縄文時代早期から弥生時代中頃までの土偶を展示し、うつりかわりゆく岩手の土偶と全国の有名な土偶を見比べる展覧会を実施した。

会期：平成24年7月14日(土)～8月19日(日)

会場：特別展示室・ミニプラザ

会期中の入館者数：6,446名

【展示内容】

- I 縄文人の心の世界―土偶まんだら― 稗内遺跡出土大型土偶頭部(重要文化財・文化庁蔵)、豊岡遺跡出土遮光器土偶(岩手県立博物館蔵)、玉里舟塚古墳出土武人埴輪(複製・明治大学博物館蔵)
- II 土偶は何に使う? 蓑虫山人絵図藤澤町(秋田県立博物館蔵)、瓶ヶ岡遺跡出土土偶画譜(弘前大学人文学部蔵)、西津軽郡木造町亀ヶ岡出土土偶・九戸郡軽米町出土土偶(東京国立博物館蔵)
- III 土偶のうつりかわり 大石平遺跡出土土偶(重要文化財・青森県立郷土館蔵)、手代森遺跡出土遮光器土偶(重要文化財・文化庁蔵)、十腰内遺跡出土中空土版(重要文化財・個人蔵)、糸魚川市大字一の宮出土土偶・榛原郡中川根町上長尾出土土偶・室蘭市絵鞆町出土土偶・小県郡丸子町腰越出土土偶形容器(東京国立博物館蔵)、東吾妻町郷原出土ハート形土偶(重要文化財・個人蔵)・遠田郡田尻町蕪栗恵比須田遺跡出土遮光器土偶(重要文化財・東京国立博物館蔵)、田柄貝塚出土土偶残欠(重要文化財・東北歴史博物館蔵)、江原台遺跡出土山形土偶(重要美術品・明治大学博物館蔵)、ヒト形土器(新潟県指定文化財・新発田市教育委員会蔵)、
- IV 遺跡の中の土偶 新潟県上山遺跡出土土偶(明治大学考古学研究室蔵)

V 土偶へのまなざし 梅垣焼遮光器土偶（個人蔵）

（トピック展示）浅野由美子氏土偶絵画

〔関連事業〕

- 1 展示解説会 平成24年7月15日(日)、8月19日(日)（いずれも14:30～15:30）参加者延べ73人
- 2 記念講演会〔兼日曜講座〕 13:30～15:00 平成24年7月22日(日)
「縄文文化最大の謎『土偶』」岡村道雄氏(奥松島縄文村歴史資料館名誉館長) 聴講者181人
- 3 考古学セミナー講演会 平成24年8月5日(日)13:30～15:00 「立ちあがれ、土偶！」
熊谷常正氏(盛岡大学) 聴講者68人
- 4 考古学セミナー現地見学会 平成24年8月11日(土)8:30～17:30 「土偶出土遺跡を巡る」
参加者28人

〔印刷物〕

- 1 ポスター B2判4色 300枚
- 2 リーフレット A4判表4色裏1色 3,000枚 A4判モノクロ館内印刷 3,000枚
- 3 図録 A4判56ページ 700冊(配布用400、販売用300)

(イ) 特別展 震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 盛岡「恐竜アロサウルスがやってきた」

国立科学博物館が地域の博物館への支援ならびに地域の自然科学の振興を図るために行っている事業の一環として、平成24年度は恐竜アロサウルス全身復元骨格（実物）等の展示が東日本大震災で被害の大きかった岩手県の博物館7館を巡回し、秋季には岩手県立博物館を会場にこの事業が実施された。当館会場では、恐竜アロサウルス全身復元骨格を中心に、当館所蔵の標本も加え、本県の最新恐竜情報等も紹介することにより、国立の機関の支援に基づいて本県における自然科学的知識の振興を図った。

主催：(独)国立科学博物館、(財)全国科学博物館振興財団、岩手県立博物館、(公財)岩手県文化振興事業団

会期：平成24年9月11日(火)～平成24年12月9日(日)

会場：グランドホールおよびミニプラザ

会期中の入館者数：13,330人(同時開催テーマ展と博物館祭入館者数含む)

〔主な展示資料〕

アロサウルス全身復元骨格（実物、長さ約7.3m）、久慈層群産恐竜化石、主な始祖鳥標本複製、尾羽竜複製、ティラノサウルス足指骨パズル、ステゴサウルス上腕骨実物触察標本、「つっちい救出」（陸前高田市立海と貝のミュージアムのツチクジラ剥製標本救出記録DVD、協力 朝日新聞社）ほか

〔関連事業〕

- 1 特別講演会 講堂 9月30日(日)13:30～15:00「盛岡から始める最新恐竜学」
真鍋 真氏(国立科学博物館) 聴講者35人
- 2 特別体験教室 実技室 9月22日(土・祝)10:00～12:00、13:30～15:30
「化石レプリカをつくろう！」原田光一郎氏(国立科学博物館)ほか指導 参加者143人
- 3 特別体験教室 実技室 12月1日(土)10:00～12:00、13:30～15:30
「恐竜ぬりえ」有田寛之氏(国立科学博物館)ほか指導 参加者96人
- 4 県博日曜講座 教室 11月25日(日)13:30～15:00
「ジュラシック・ワールド・イン・イワテ」大石雅之(当館学芸部長) 聴講者25人
- 5 スタンプラリー 全7会場連携事業

〔印刷物〕

リーフレット A4判 カラー 7,200部

(ウ) テーマ展「砂～砂粒から大地をさぐる～」

子供から大人までの誰でもが容易に手にとって観察できる砂を通して、岩手・日本・世界の地質を考えてみる。砂のほとんどは岩石であり、岩手県の主な河川の砂から流域の地質を調べてみた。さらに、日本や海外の砂を展示し岩手の砂と比較してみた。また、3.11の津波堆積物を展示した。体験展示では、岩手の砂浜の砂や日本各地の鳴り砂を実際に鳴らしてみたり、いろいろな砂を実体顕微鏡で観察できるようにした。

会期：平成24年10月2日（火）～12月2日（日）

会場：特別展示室

会期中の入館者数：9,642名（同時開催テーマ展と博物館まつり入館者数含む）

【展示内容】

1	風化のはたらきと砂	5-1	日本列島の地質
2	岩手の地質	5-2	日本の砂
3-1	奥羽山脈とはどのような山々か	6-1	世界の地質
3-2	奥羽山脈から運ばれる川砂 1	6-2	世界の砂
3-3	奥羽山脈から運ばれる川砂 2	7	津波と津波堆積物
4-1	北上山地とはどのような山々か	8	岩手の砂浜
4-2	北上山地から運ばれる川砂 1	9	鳴り砂
4-3	北上山地から運ばれる川砂 2	10	(体験)砂の観察

【関連行事】

1 展示解説会 10月8日(月・祝)、10月20日(土)、11月4日(日)、11月18日(日)

(いずれも14:30～15:30) 参加者24人

2 地質セミナー（兼県博日曜講座）

10月21日(日) 13:30～15:00 「音を奏でる砂『鳴り砂』の魅力」

兼子 尚知（独法産業技術総合研究所地質標本館）聴講者 29人

10月28日(日) 13:30～15:00 「砂粒から大地をさぐる」吉田充（当館学芸員）聴講者 18人

(エ) 平成24年度岩手県立博物館移動展・第33回埋蔵文化財展 合同展

盛岡市から遠隔地にある市町村で年1回開催してきた「岩手県立博物館移動展」と、発掘調査で見つかった遺物を公開するための岩手県立埋蔵文化財センターによる「埋蔵文化財展」の両展覧会を合同で実施。震災の影響で2年ぶりの開催となった今年度は、平成20年度からの埋蔵文化財センターに加え、岩手県立美術館、岩手県民会館との合同事業の一環として実施され発展した。

会期：平成24年11月22日(木)～25日(日) 4日間

会場：軽米町農村環境改善センター

タイトル：『いわての宝をみよう ―自然・文化、軽米の遺跡―』

来場者数：383名

【展示内容】 展示総数185点（博物館分）

- 1 地質 クサリサンゴ・パレオパラドキシア(部分・複製)・ミズホクジラ(部分・複製)など
- 2 生物 ハクビシン(剥製)・アルビノツキノワグマ(剥製)・白いタヌキ(剥製)・アオバト(剥製)・ヨタカ(剥製)・トラツグミ(剥製)・センダイムシクイ(剥製)・コノハズク(複製)など
- 3 考古 縄文土器・土版・尖頭器・蕨手刀・近世陶磁器など軽米町内外の出土資料
- 4 歴史 花菖蒲に蝶図罽・銅造聖観音菩薩立像(複製)・盛岡藩領内図 など
- 5 民俗 天明3年田山暦(複製)・天保13年盛岡暦(複製)・わら人形(複製)・正月の餅料理(複製)など

【関連事業】

展示解説会 11月25日(日) ①13:00～ ②15:00～ 参加者数合計43名

（オ）テーマ展「2011.3.11 平成の大津波被害と博物館―被災資料の再生をめざして―」

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、わが国における戦後最大の自然災害となった。津波常襲地帯として知られる岩手県三陸沿岸でも数多くの尊い生命と財産が失われ、この地域に伝わる貴重な文化遺産や自然遺産、そして数多くの博物館およびその関連施設も壊滅的被害を受けた。

未曾有の自然災害を目の当たりにし、われわれ岩手県立博物館は平成23年4月2日以降今日まで、岩手県太平洋岸に設置された博物館関連施設、太平洋沿岸の貴重な自然遺産および文化遺産の救出と再生を図るため、岩手県教育委員会と連携し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会をはじめとする様々な機関の支援を得ながら、岩手県沿岸部の中でも特に被害が深刻な陸前高田市を中心に、博物館関連施設からの被災資料の救出と恒久的保存に向けた措置を施してきた。

本テーマ展は、平成24年12月15日までの活動状況を報告し、併せて今後の課題を整理して被災施設の機能が一日も早く再生されるよう支援の一層の充実を図ること、これまでにいただいた様々な支援に対し、感謝の意を表することを目的として開催された。テーマ展パンフレットは、昭和女子大学と共同編集した。

会期中、関連事業として、講演会および県博日曜講座を開催した。また、企業メセナ協議会GBFund（東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド）の助成を受け、被災地の博物館機能再生を主題とするシンポジウムを実施した。本テーマ展は、平成25年5月15日（水）～6月22日（土）まで、昭和女子大学光葉博物館において別途展示公開される予定である。

会期：平成25年1月5日（土）～3月17日（日）

会場：特別展示室・ミニプラザ

主催：岩手県立博物館・（公財）岩手県文化振興事業団

共催：昭和女子大学・陸前高田市教育委員会・大船渡市教育委員会・釜石市教育委員会・

山田町教育委員会・宮古市教育委員会

会期中の入館者数：5,469名

〔展示内容〕

- 1 東北地方太平洋沖地震と津波、そして東日本大震災地震、地震、津波、震災について概説
- 2 3.11 大津波の浸水域と被害の状況 岩手県沿岸部およびその周辺部地域の浸水域、博物館および類似施設の被災状況、点在する遺跡の浸水状況を図および写真を使い概説。
- 3 津波の歴史 明治以降の三陸地方の津波の歴史を、写真、雑誌、実物資料を用い説明。
- 4 岩手県立博物館が実施してきた救援活動状況 岩手県立博物館が主体となり行ってきた文化財および自然史標本をはじめとする被災資料救援活動の概要と経過を、写真および図を使い説明。
- 5 岩手県沿岸被災施設の救援 岩手県沿岸部の博物館および関連施設の大津波による被災状況、岩手県立博物館による被災資料の救出と再生(安定化处理)方法、および被災資料の学術的価値などについて概説。
- 6 全国からの様々な支援とボランティアの活躍 当館の救援活動に対し、全国から寄せられた支援内容およびボランティアの活躍について、首都圏ボランティア組織による陸前高田市所蔵被災写真資料のクリーニングとデジタル化について紹介。
- 7 今後の展望 生態系のモニタリング活動、地域の伝統文化再生、およびジオパーク構想など被災地において実施されている今後の博物館機能再生のための構想と取り組みについて、実物資料および写真パネルを使い紹介。

〔主な展示資料〕

- 1 実物展示資料 ・岩手県指定文化財 吉田家文書の村絵図や定留など・岩手県指定文化財 吉田家住宅主屋の部材 ・岩手県指定文化財 銅鰐口・陸前高田市指定文化財 毛抜形蕨手刀・国登録有形民俗文化財盛合家住宅の衝立・屏風など・三陸の磯物採取および網漁に使用された漁撈用具(国登録有形民俗文化財を含む)・気仙地方の大工道具・陸前高田市海と貝のミュージアム、陸前高田市立博物

- 館、および山田町所蔵の代表的自然史標本
- 2 写真パネル 岩手県立博物館の救援活動状況他 約 100 枚
 - 3 映像・被災古文書、被災民俗資料、被災自然史標本の安定化処理実施状況(岩手県立博物館デジタルサイネージシステムにより公開)・岩手県指定文化財『吉田家住宅』の復元 CG 模型

【関連事業】

- 1 展示解説会 平成 25 年 1 月 6 日(日)、3 月 3 日(日)(いずれも 14:30~15:30) 参加者 27 人
- 2 冬期文化講演会 平成 25 年 2 月 7 日(木) 13:30~15:15 (岩手県立博物館講堂)
「民俗文化財の保護と災害 ー陸前高田の漁撈用具の被災・再生を中心にー」石垣悟氏(文化庁伝統文化課文化財調査官) 聴講者 67 人
- 3 シンポジウム(岩手県立博物館講堂) 参加者 2 月 10 日(日) 68 人、2 月 11 日(月) 55 人
平成 25 年 2 月 10 日(日) 13:00~16:45・2 月 11 日(月) 9:45~16:30
○基調講演「被災文化財の再生と博物館施設の復旧 ～震災 2 年後の状況～」
神庭信幸 氏(東京国立博物館保存修復課長) (2 月 10 日)
○事例報告 (2 月 10 日・報告①、② 2 月 11 日・報告③~⑦)
報告① 佐々木淳 氏(石巻文化センター) 報告② 古川 健 氏(ふくしま海洋科学館)
報告③ 森 一欽 氏(釜石市教育委員会) 報告④ 川向聖子 氏(山田町教育委員会)
報告⑤ 千田政博 氏(洋野町教育委員会) 報告⑥ 熊谷 賢 氏(陸前高田市教育委員会)
報告⑦ 金野良一 氏(大船渡市教育委員会)
○パネルディスカッション (2 月 11 日)
シンポジウム事例報告者および岩手県立博物館 大石雅之・佐々木勝宏をパネラー、東京国立博物館 神庭信幸氏をコメンテーターとして、危機管理および被災した博物館の機能再生を主題に岩手県立博物館 赤沼英男の司会により行った。
※本事業は主催：岩手県立博物館・公益財団法人岩手県文化振興事業団、共催：陸前高田市教育委員会・大船渡市教育委員会・山田町教育委員会・釜石市教育委員会・洋野町教育委員会、後援：宮城県教育委員会・福島県教育委員会、企業メセナ協議会 GBFund の助成により実施された。
- 4 県博日曜講座 (各開催日 13:30~15:00)
○1 月 13 日(日)「被災資料を次世代へ伝えていくために～陸前高田被災資料デジタル化プロジェクトの活動について～」天野圭悟氏・渡部亜紀子氏(陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト)聴講者 28 人
○1 月 27 日(日)「平成の大津波で被災した文化財の再生」赤沼英男(当館学芸第二課長)聴講者 37 人
○2 月 24 日(日)「江戸期の今泉集落と吉田家住宅」高橋恒夫氏(東北工業大学教授)聴講者 62 人
○3 月 10 日(日)「津波で流出した県指定吉田家住宅の復元活動 ーCG および模型復元ー」
月舘敏栄氏(八戸工業大学大学院教授)聴講者 68 人

【印刷物】

- 1 ポスター B2 判 4 色 500 枚
- 2 リーフレット A4 判表 4 色裏 1 色印刷 20,000 枚
- 3 パンフレット A4 判 16 ページ 3,000 冊(昭和女子大学と共同編集)。

【(カ) テーマ展「いわての昭和モノがたりー戦後復興の軌跡、震災復興への希望ー」

会期：平成 25 年 3 月 30 日(土)～平成 25 年 5 月 26 日(日)

会場：特別展示室・ミニプラザ

会期中の入館者数：5,252 人 (このうち平成 24 年度分 3 月 30 日、31 日の入館者数 334 人)

【展示内容】

第 1 章 敗戦からの再建

昭和 20 年代を中心として、終戦直後のいわての動向について、政治・産業・商業活動・文化の復興という観点より紹介した。

主な展示資料：高村光太郎「岩手の人」原稿、富士製鐵釜石製鐵所第八高炉火入れ記念文鎮、更生市場関係資料、多賀神楽関係資料

第 2 章 高度成長の時代

昭和 30 年代から 40 年代を中心に、電化が人々の生活を大きく変えていった様子を、当時生産された電化製品をはじめとする資料から紹介した。またいわての戦後復興を象徴するイベントの一つである昭和 45 年岩手国体についてもあわせて紹介した。

主な展示資料：電気洗濯機、電気冷蔵庫、白黒テレビ、岩手国体役員ユニフォーム

第 3 章 めん王国の誕生！

いずれも戦後復興のなかで現在のスタイルが確立された、「三大麺」とよばれるわんこそば、冷麺、じゃじゃ麺の歴史をたどることで、前章までとは違う視点から戦後のいわてのあゆみを紹介した。

主な展示資料：570 杯のわんこそば用椀、木製製麺機、じゃじゃ麺製造用鍋、馬場勝彦氏関連資料

第 4 章 平成のなかの昭和

昭和という時代が終わり四半世紀が過ぎた現在、昭和という時代がどのように評価され、活用されているか、東日本大震災後に新たに見出された価値観もふまえながら紹介した。

主な展示資料：ポーズ人形、ブリキ製玩具、手回し洗濯機、井上ひさし氏母、兄の書簡及び関連資料

※以上に加え、会期中ミニプラザにおいて、昭和 45 年岩手国体の写真パネル展、岩手県宮古市在住の人形作家、佐々木昇子氏の作品による「昭和の風景展」を実施した。

【関連事業】

①ミュージアムシアター

4 月 6 日（土） 13:30～15:00 「映像でみる昭和」 視聴者 43 人 ※平成 25 年度実施

5 月 4 日（土） 13:30～15:00 「昭和のヒーロー特集」 視聴者 63 人 ※平成 25 年度実施

②関連講演会（平成 25 年度実施分も含む）

1 「朝鮮半島における炸醬麵の定着と新たな展開」 林史樹氏（神田外語大学教授）

4 月 14 日（日） 13:30～15:00 聴講者 36 人 ※平成 25 年度実施

2 「いわての昭和モノがたり」 目時和哉（当館学芸調査員）5 月 12 日（日）13:30～15:00

聴講者 24 人 ※平成 25 年度実施

3 「岩手県復興と井上ひさし」 石井正己氏（東京学芸大学教授）5 月 25 日（土）13:00～14:30

聴講者 29 人 ※平成 25 年度実施

③展示解説会

3 月 30 日（土）14:30～15:30 参加者 13 人

4 月 29 日（月・祝）14:30～15:30 参加者 12 人 ※平成 25 年度実施

5 月 25 日（土）14:30～15:30 参加者 10 人 ※平成 25 年度実施

【印刷物】

1 ポスター B2 判 4 色刷 500 枚

2 リーフレット A4 判表面 4 色裏面 1 色刷 13,000 枚

3 パンフレット A4 判全頁 4 色刷 16 頁 1,000 部

※GBFund（東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド）の助成を受けて作成し、沿岸部の教育機関・文化施設等に無償配布した。

(2) 教育普及活動

開催事業としては、博物館秋期セミナー、県博日曜講座、自然観察会・地質観察会、講演会・講座、子ども向けたいけん教室、チャレンジ！はくぶつかん、ミュージアムシアター等の主に休日等に開催した事業、学校支援や社会教育事業の一環としての「県博出前講座」、伝統芸能鑑賞会など多くの事業を実施し、延べ15,022名が参加した。東日本大震災により前年度休止した博物館まつりは第4回として再開し、多数の参加者があった。併せて、被災地の沿岸地域小学生や保護者等を当館に特別招待して実施した「夏休み子ども招待事業」については、参加者から好評を博し大きな成果をあげた。夏休み期間中は休館日を2日間ほど臨時開館し、また、冬休み期間中は子ども向けの「冬休み体験教室」を実施して、県民へのサービス向上につとめた。

平成15年度から5月18日の「国際博物館の日」記念事業を継続実施してきた。18年度以降は一般の来館者が見ることができない博物館の裏側を案内する「県博バックヤードツアー」を実施した。非常に好評だったことから、現在、この事業はほぼ定着している。

(ア) 開催事業

I 解説会

事業名	月日	場所	講師	参加者数	総数	摘要	
展覧会 展示解説会 〔全9回実施〕	7・15(日)	特別展示室	八木勝枝	41	1 3 7	企画展「土偶まんだら」解説会	
	8・19(日)			32			
	10・8(月・祝)		吉田充	5		テーマ展「砂～砂粒から大地をさぐる～」解説会	
	10・20(土)			2			
	11・4(日)			7			
	11・18(日)			10			
	1・6(日)			20			テーマ展「平成の大津波被害と博物館～被災資料の再生をめざして～」解説会
	3・3(日)			7			
3・30(土)	目時和哉	13	テーマ展「いわての昭和モノ語り」解説会				
学芸員による一般団体への展示解説等	7・18(水)	館内	八木勝枝	40	1 8 3	平成24年度郷土史学習会「土偶まんだら」(講座2時間)	
	7・24(火)	館内	八木勝枝	34		土偶(講座1時間・展示解説1時間)	
	8・8(水)	館内	佐々木勝宏	28		文化財レスキュー(展示解説1時間)	
	8・26(日)	館内	佐々木勝宏	41		岩手の歴史を学ぶ(展示解説1時間)	
	10・17(水)	館内	吉田充	20		砂(展示解説1時間)	
	10・17(水)	館内	大石雅之	20		恐竜(展示解説1時間)	
移動展展示解説会	11・25(日)	軽米町	羽柴、佐々木、川向、藤井忠志、吉田	43		午前午後2回実施	
常設展示 定時解説会 〔全87回実施〕	4月	各展示室	解説員	12	1 9 1	成立回数10	
	5月			23		成立回数6	
	6月			11		成立回数7	
	7月			15		成立回数8	
	8月			47		成立回数14	
	9月			16		成立回数7	
	10月			11		成立回数4	
	11月			15		成立回数9	
	12月			5		成立回数4	
	1月			13		成立回数6	
	2月			14		成立回数6	
	3月			9		成立回数6	

事業名	月 日	場所	講師	参加者数	総 数	摘要
常設展示 通覧解説会 〔全165回実施〕	4月	各展示室	解説員	129	3	実施回数 7
	5月			293		実施回数 18
	6月			656		実施回数 25
	7月			505		実施回数 16
	8月			106		実施回数 11
	9月			321		実施回数 7
	10月			307		実施回数 16
	11月			338		実施回数 23
	12月			143		実施回数 8
	1月			257		実施回数 10
	2月			214		実施回数 14
	3月			118		実施回数 10

II 講座

事業名	月 日	場所	講師	参加者数	摘要
古文書入門講座 〔全8回〕	5・12～6・2の 土曜日曜	教室	阿部勝則	158	受講者数 25名 のべ158名
古文書初・中級 講座〔全10回〕	6・23～7・22の 土曜日曜	教室	阿部勝則	318	受講者数 37名 のべ318名
博物館実習 〔全7日〕	8・16～23 ※20日を除く	全館	学芸職員・解説員	96	受講者 14名 のべ96名 (岩手大学、盛岡大学、弘前大学、弘前 学院大学、山形県立米沢女子短期大学、 東北芸術工科大学、千葉大学、青山学院 大学、八洲学園大学、鳥取大学)
文化財等取扱講 習会 〔全3日〕	2・6(水)～ 2・8(金)	全館	学芸職員	87	受講者 29名 のべ87名 (八幡平市博物館、花巻市総合文化セン ター、二戸市立二戸歴史民俗資料館、財 団法人高村記念館、御所野縄文博物館、 岩手県立水産科学館、宗教法人毛越寺、 盛岡市先人記念館、盛岡市胆関の学び館 ほか)

事業名	月 日	実施場所	講師	参加者数	摘要
県博日曜講座 〔全21回〕	4・8(日)	講堂	阿部勝則	42	世界遺産としての「平泉」
	4・22(日)	講堂	兼平賢治氏(盛岡大学 非常勤講師)	74	南部重直は暴君か
	5・13(日)	教室	藤井千春	14	標本たちへのレクイエム～東日本大震 災被災昆虫標本レスキューについて～
	5・27(日)	教室	瀬川修	28	気仙大工
	6・10(日)	教室	斎藤邦雄	25	岩手県出土の古代ガラス
	6・24(日)	教室	羽柴直人	43	考古学で探る江戸時代の暮らしー県内 の遺跡調査事例を中心にー
	7・8(日)	教室	目時和哉	34	太平洋とともに生きた人々
	7・22(日)	講堂	岡村道雄氏(奥松島縄文 村歴史資料館名誉館長)	181	縄文文化最大の謎『土偶』 企画展「土偶まんだら」関連
	8・12(日)	教室	川向富貴子	17	いわての「ごりやくさま、～新年を迎 える前に～
	8・26(日)	講堂	佐々木勝宏	119	初代八戸藩主霊松院の実家 川口家の 変遷
	9・23(日)	講堂	茶谷十六氏(民族芸術 研究所理事)	120	南部三閉伊一揆と気仙大肝入吉田家 ー岩手県指定文化財吉田家文書を通してー
	10・28(日)	教室	吉田充	18	砂粒から大地をさぐる 「砂～砂粒から大地をさぐる～」関連
	11・11(日)	教室	八木勝枝	26	「土偶まんだら」展を終えて

事業名	月日	実施場所	講師	参加者数	摘要
県博日曜講座 〔全21回〕	11・25(日)	教室	大石雅之	25	ジュラシック・ワールド・イン・イワテ「恐竜アロサウルスがやってきた」関連
	12・16(日)	講堂	根深誠氏(作家・登山家)・藤井忠志	62	白神山地が世界自然遺産に登録されるまでとその後
	12・23(日)	教室	齋藤里香	29	盛岡藩の絵師川口月嶺～旅と写生と城づとめ～
	1・13(日)	講堂	天野圭悟氏・渡部亜紀子氏(陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト実行委員会)	28	被災資料を次世代へ伝えていくために～陸前高田被災資料デジタル化プロジェクトの活動について～ 「平成の大津波被害と博物館」関連
	1・27(日)	教室	赤沼英男	37	大津波により被災した文化財の再生 「平成の大津波被害と博物館」関連
	2・24(日)	講堂	高橋恒夫氏(東北工業大学教授)	62	江戸期の今泉集落と吉田家住宅 「平成の大津波被害と博物館」関連
	3・10(日)	講堂	月館敏栄氏(八戸工業大学大学院教授)	68	津波で流出した県指定吉田家住宅の復元活動—CGおよび模型復元— 「平成の大津波被害と博物館」関連
	3・24(日)	講堂	島田直明氏(岩手県立大学)・鈴木まほろ	90	津波被災地の植物の変化について兼「みんなでつくる植物誌」講演会
考古学セミナー ※土偶まんだら関連	8・5(日)	講堂	熊谷常正氏(盛岡大学教授)	68	立ち上がれ!土偶
特別講演会 ※コラボミュージアム関連	9・30(日)	講堂	真鍋真氏(国立科学博物館)	35	盛岡から始める恐竜学
秋期博物館セミナー ※砂展関連	10・21(日)	教室	兼子尚知氏(産業技術総合研究所)	29	音を奏でる砂,「鳴り砂」の魅力
文化講演会	11・3(土・祝)	講堂	川島秀一氏(神奈川大学大学院特任教授)	43	三陸沿岸と津波伝承
民俗講座	3・20(水・祝)	講堂	岡田芳朗氏(暦の会会長・女子美術大学名誉教授)	45	新発見!もうひとつの天明三年田山暦の謎と南部絵暦の魅力
冬期文化講演会 「平成の大津波被害と博物館」関連	2・7(木)	講堂	石垣悟氏(文化庁伝統文化課文化財調査官)	67	民俗文化財の保護と災害—陸前高田の漁撈用具の被災・再生を中心に—
シンポジウム ※「平成の大津波被害と博物館」関連 共催:陸前高田市教育委員会・大船渡市教育委員会・釜石市教育委員会・山田町教育委員会・洋野町教育委員会 後援:宮城県教育委員会・福島県教育委員会 助成:企業メセナ協議会 GBFund(東日本大震災芸術・文化による復興支援ファンド)	2・10(日)	講堂	●基調講演:神庭信幸氏(東京国立博物館保存修復課長) ●報告1 佐々木淳氏(石巻文化センター) 古川健氏(ふくしま海洋科学館(アクアマリンふくしま))	68	●基調講演「被災文化財の再生と博物館施設の復旧～震災2年後の状況～」 ●報告1 宮城県・福島県から
	2・11(月・祝)	講堂	熊谷賢氏(陸前高田市立博物館) 金野良一氏(大船渡市立博物館館長) 川向聖子氏(山田町教育委員会) 森一欽氏(釜石市教育委員会) 千田政博氏(洋野町教育委員会)	55	●報告2 岩手県沿岸市町村から ●パネルディスカッション「被災地の博物館機能再生のために」

Ⅲ 現地見学会・観察会、鑑賞会

事業名	月日	場所	講師(対応者)	参加者数	摘要
第 63 回地質観察会	7・8(日)	二戸市	小守一男氏(二戸市文化財調査委員)	23	二戸市白鳥川の門ノ沢動物群～亜熱帯・熱帯の貝化石～申込者 25 名
第 64 回地質観察会 ※テーマ展砂関連	10・7(日)	一関市	北峯瑞也氏(日本地学研究会会員)	19	川砂から鉱物をさがす 申込者 21 名
第 63 回自然観察会	9・23(日)	岩泉町龍泉洞	菊池敏雄氏、柳沢忠昭氏(日本洞穴学研究所研究員)	38	洞くつ探検! 申込者 40 名
第 64 回自然観察会	10・21(日)	毛無森国有林	畠山茂雄氏(岩手の植物を語る集い事務局長)	20	紅葉のブナ林を歩こう!
考古学セミナー 現地見学会 ※企画展土偶まんだら関連	8・11(土)	花巻市ほか	八木勝枝	28	土偶出土遺跡を巡る 申込者 29 名
伝統芸能鑑賞会 ※事業団自主事業	6・3(日)	民家(旧佐々木家)	普代村/鶴鳥神楽保存会	150	鶴鳥神楽の講演
県博バックヤードツアー [全3回]	5・19(土)	全館	目時・齋藤里・川向・笠原・佐々木・藤井忠・藤井千・齋藤邦・川又・協栄テックス	27	第1～第5収蔵庫等の見学ツアー

Ⅳ 子ども向け事業

事業名	月日	実施場所	講師(対応者)	参加者数	総数	摘要
たいけん教室～ みんなのためそう～ [全49回] ※今年度から事前予約制とした。 ※参加者総数は付添いの保護者を含む。	4月/5回	実技室	解説員	122	1 4 8 6	まが玉アクセサリーほか
	5月/4回	実技室	解説員	104		かけじくをつくろうほか
	6月/4回	実技室	解説員	131		チャグチャグ馬コほか
	7月/5回	実技室	解説員	201		のびちぢみしゃくとり虫ほか
	8月/4回	実技室	解説員	145		ちぎり絵のうちわほか
	9月/3回	実技室	佐藤克英氏、解説員	103		ばねのキツキおもちほか
	10月/3回	実技室	解説員	83		スライムであそぼうほか
	11月/4回	実技室	木藤古徳一郎氏・解説員	141		木の工作教室ほか
	12月/4回	実技室	飯坂真紀氏、解説員	70		松ぼっくりのXmas ツリーほか
	1月/4回	実技室	解説員	124		まゆで干支(巳)づくりほか
	2月/4回	実技室	解説員	102		石のオリジナルはんこほか
	3月/5回	実技室	解説員	160		こはくの玉づくりほか
	チャレンジ!はくぶつかん [全53回] ※皆勤賞 14 名	4月/4回	全館	川向富貴子		57
5月/4回		全館	目時和哉	61	春	
6月/4回		全館	笠原雅史	102	顔	
7月/5回		全館	川向富貴子	87	びかびか	
8月/5回		全館	笠原雅史	161	夏	
9月/5回		全館	佐々木勝宏	132	秋	
10月/4回		全館	川向富貴子	444	石	
11月/4回		全館	齋藤邦雄	134	空	
12月/4回		全館	佐々木勝宏	95	冬	
1月/5回		全館	八木勝枝	67	ふわふわふかふか	
2月/5回		全館	阿部勝則	63	赤	
3月/4回		全館	八木勝枝	77	山	
夏休みこどもツアー [全6回]		7月21, 27, 28日 8月10, 11, 18日	全館	目時・笠原・八木・解説員	236	展示見学と工作
第4回岩手県立博物館まつり ※事業団自主事業	10・14(日)	全館	職員全員, 友の会, ボランティア	2,108	※総合受付者数	
冬休みたいけん教室 [全2回]	1・9(水), 1・10(木)	実技室	解説員・八木・笠原・齋藤・川向	332	たこ、勾玉アクセサリー、化石のレプリカから選択し工作(参加者のうち保護者110人)	

事業名	月日	実施場所	講師(対応者)	参加者数	総数	摘要
特別体験教室 〔全2回〕	9・22(土)、 12・1(土)	館内	国立科学博物館スタッフ	239		化石レプリカをつくろう、恐竜ぬりえ ※コボミュージアム関連事業
ミュージアムシ アター〔全10 回〕	4・7(土)	講堂	盛岡教育事務所中央 地域視聴覚ライブラ リー映写ボランティア 〔シネマ友の会〕	14	2 5 6	防災特集
	5・5(土・祝)			31		こどもの日アニメ特集
	6・2(土)			5		落語特集1
	7・7(土)			54		落語特集2
	8・4(土)			49		夏休みアニメ特集
	10・6(土)			19		世界名作アニメ
	12・1(土)			37		クリスマスアニメ特集
	1・5(土)			17		冬休みアニメ特集
	2・2(土)			11		犬のアニメ特集
	3・2(土)			19		世界名作劇場アニメ
冬の写生会 ※事業団自主事業	12・15(土)～ 1・14(月・祝)	館内		37	4	写生
	1・26(土)～ 2・17(日)			7	4	展示鑑賞

県博出前講座 ※当館の旅費負担による職員派遣

月日	依頼者	演題・テーマ・依頼内容	参加者数	実施場所	派遣職員
4・14	盛岡市西部公民館	いわて学講座「文化財レスキューにおける博物館の能力の実証～仙台藩大肝入吉田家の二つの文化財～」	43	盛岡市西部公民館	佐々木勝宏
5・19	滝沢村野生サクラ草ネットワーク	第8回野生サクラ草サミット 観察会「クキタナイ川サクラソウ自生地」 現地解説 講演会「岩手山麓の湿地と水辺の植物」	191	雫石町／小岩井農場まき 場園牧場館	鈴木まほろ
5・24	金ヶ崎町西部地区 生涯教育センター	環境講座「西部地区内観察会・長志田編」 (西部地区内に生息する植物観察及び鑑 定会)	15	金ヶ崎町西部地区生涯教 育センター、雲南堤及び 水芭蕉生息地	鈴木まほろ
7・27	金ヶ崎町中央生涯 教育センター	夏季被災地交流事業「虫取りハンター」 (虫取りのトラップ作成・設置指導、虫 に関する知識の指導)	36	岩手県南青少年の家	藤井 千春
8・29	盛岡市立太田小学 校	理科および総合的な学習の時間「水に棲 む生き物～身近な環境を考えよう～」関 連、水質調査学習	20	盛岡市猪去川流域	藤井 千春
2・14	盛岡白百合学園小 学校	社会科「むかしのくらしについて」	20	盛岡白百合学園小学校	目時 和哉

職員派遣 ※主催者実費負担による

月日	依頼者	演題・テーマ・依頼内容	参加者数	実施場所	派遣職員
4・7	岩手県立図書館	企画展「海とともに生きる」関連講演会 「それでも海とともに生きるために」	40	岩手県立図書館	目時 和哉
4・14	盛岡市西部公民館	いわて学講座「文化財レスキューにおけ る博物館の能力の実証～仙台藩大肝入吉 田家の二つの文化財～」	43	盛岡市西部公民館	佐々木勝宏
5・1	二戸市うるし振興 室	名誉住職青空説法にともなう展示替え 「震災に寄り添う」指導	4	浄法寺総合支所	佐々木勝宏
5・27	花巻市／新仙寺護 持会	開基内堀家の変遷と御本尊についての考察と二 組の揃膳の解説「内堀家ゆかりの新仙寺」	83	花巻市新仙寺本堂	佐々木勝宏
6・2	日本セトロジー研 究会	日本セトロジー研究会研究会第23回大会 「被災した自然史標本の現状」	30	宮城県松島町中央公民館	大石 雅之
6・3	紫波町赤石公民館	「比爪の都市構造」	50	紫波町赤石小学校	羽柴 直人

月日	依頼者	演題・テーマ・依頼内容	参加者数	実施場所	派遣職員
6・11	宮古ユネスコ協会	平成24年度宮古ユネスコ協会・日本教育会宮古地区会共催定期講演会「世界遺産としての『平泉』」	103	宮古市ホテル沢田屋	阿部 勝則
6・21	八幡平市田頭公民館	高齢者講座 曙大学開講式講演「南部絵巻を読む」	55	八幡平市 田頭公民館	川向富貴子
6・23	岩手町中央公民館・岩手町史談会	川口源之丞ゆかりの地を訪ねる(志和沢口観音堂跡地・沢口観音堂・新仙寺)	39	紫波町ほか 沢口観音堂・新仙寺	佐々木勝宏
6・24	宮古市	宮古・ニュートン・スクールおよびジオサイトガイド養成講座	44	宮古市～田野畑村	大石 雅之
6・26	住田町	森林環境学習(水生生物調査)	17	住田町立有住小学校	藤井 千春
6・27	住田町	森林環境学習(水生生物調査)	26	住田町立世田米小学校	藤井 千春
7・5	盛岡市乙部地区公民館	盛岡市親子ホテル観察講座	24	盛岡市乙部地区公民館	藤井 千春
7・6	盛岡市乙部地区公民館	盛岡市親子ホテル観察講座	44	盛岡市乙部地区公民館	藤井 千春
7・31	横浜国立大学リスク共生型環境再生リーダー育成プログラム	いのちを守るがれきを活用した緑の防潮堤構想セミナー 講演およびパネル討論「三陸沿岸の植生について」	60	陸前高田市立第一中学校 体育館	鈴木まほろ
8・1	岩手県教育委員会	平成24年度授業力向上研修講座「児童の主体的・意欲的な学習活動の充実をうながす教育施設の利活用」	79	岩手県生涯学習推進センター	佐々木勝宏
8・2	金ヶ崎町西部地区生涯教育センター	環境講座 西部地区内観察会(夏の植物観察・押し葉標本作成)	14	金ヶ崎町西部地区	鈴木まほろ
8・5	岩手町中央公民館・岩手町史談会	歴史講座「八戸藩はなぜ出来たのか？」	32	岩手町ゆはず交流館	佐々木勝宏
8・5	社団法人八戸観光コンベンション協会	根城おもしろ講座「松平定信の文化財調査～櫛引八幡宮と遠野南部家の鎧～」	56	青森県八戸市 史跡根城の広場	齋藤 里香
8・8	紫波町志和公民館	ふるさと歴史講座「南部直常公の御遠忌に霊松院の心を思う」	31	紫波町ほか 沢口観堂・志和公民館	佐々木勝宏
8・19	陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト	講演会「岩手県の被災自然史標本のレスキュー」	10	横浜市/野毛 Hana#Hana	鈴木まほろ
8・23	大船渡市教育委員会	大船渡市成人講座「東日本大震災での文化財レスキューについて～自然史標本を中心に～」	70	大船渡市カメラホール	鈴木まほろ
9・4	花巻市教育委員会	花巻市教育研究所第2回研修会(小学校理科部会)「花巻『イギリス海岸』から大地のおいたちを読み解く」	22	花巻市若葉小学校 同市小舟渡、下駒板	大石 雅之
9・14	金ヶ崎町西部地区生涯教育センター	環境講座 西部地区内観察会(植物観察・押し葉標本作成)	12	金ヶ崎町西部地区	鈴木まほろ
9・28	北上市黒沢尻東地区交流センター	黒岩白山廃寺跡と平泉文化	30	北上市黒沢尻東地区交流センター	羽柴 直人
9・29	岩手町中央公民館・岩手町史談会	歴史講座「川口源之丞の孫たちのゆかりの地巡り(墓参)」	43	青森県/南宗寺・大慈寺・八戸市立博物館	佐々木勝宏
10・12	平泉町・紫波町議会議員交流会	「比爪氏と平泉の関係」	40	紫波町ラ・フランス温泉	羽柴 直人
10・19	盛岡の歴史を語る会	講演「八戸藩二代藩主南部直政の生涯」	173	盛岡市総合福祉センター	佐々木勝宏
10・23	盛岡市立生出小学校	総合的な活動の時間 指導「タンポポ質問、ヒンジモ観察」	4	盛岡市立生出小学校	鈴木まほろ

月日	依頼者	演題・テーマ・依頼内容	参加者数	実施場所	派遣職員
10・30	東京大学大気海洋研究所	東京大学大気海洋研究所柏地区共同利用研究集会「飼育下における底生魚の発光観察マルアオメエゾ、エゾイソアイナメの例」	60	東京大学大気海洋研究所	藤井 千春
10・31	岩手県林業技士会	研修会 講演「岩手県植物誌の改訂について」	30	岩手県森林組合会館	鈴木まほろ
11・8	岩手県環境生活部 自然保護課	平成24年度岩手県自然保護関係職員合同研修会 講演「岩手県の高山植物・希少植物」	45	葛巻町ふれあい宿舎グリーンテージ	鈴木まほろ
11・25	盛岡ひ・ストーリー	「厨川に來た源頼朝」	20	盛岡市西部公民館	羽柴 直人
12・1	自然史学会連合	自然史学会連合講演会「標本レスキューの実際～津波に遭った自然史標本を救う試み」	70	栃木県立博物館	鈴木まほろ
12・1	陸前高田被災資料 デジタル化プロジェクト	講演会「ある博物館レスキュー～震災前・後・これから～」	11	横浜市／野毛 Hana*Hana	藤井 千春
12・2	東北植物研究会	2012年度東北植物研究会講演会「大津波被害にあった生物標本の救出・復元の取り組みについて」	35	仙台市野草園	鈴木まほろ
12・2	岩手県歴史研究会	「安倍氏の考古学的研究」	20	八幡平市八幡平ロイヤルホテル	羽柴 直人
12・4	紫波町志和公民館	ふるさと歴史講座「八戸南部家と新渡戸家」	17	花巻市白山神社大日堂と新渡戸記念館	佐々木勝宏
1・20	陸前高田被災資料 デジタル化プロジェクト 実行委員会	ヨコハマフォトフェスティバルにおけるパネルディスカッション「岩手県立博物館における文化財レスキューについて」	40	横浜市赤レンガ倉庫1号館	鈴木まほろ
1・23	東北太平洋沖地震 被災文化財等救援 委員会	「語ろう！文化財レスキュー」公開討論会	50	東京国立博物館	赤沼 英男 鈴木まほろ
2・4	東北太平洋沖地震 被災文化財等救援 委員会	「語ろう！文化財レスキュー」公開討論会	50	東京国立博物館	鈴木まほろ
2・15	紫波町志和公民館	「弥勒地経塚の調査」	50	紫波町志和公民館	羽柴 直人
2・16	金ヶ崎町教育委員会	第10回安倍氏の柵シンポジウム「紫波郡の安倍氏時代の遺跡―宮手遺跡―」	100	金ヶ崎町中央生涯教育センター	羽柴 直人
2・17	植生学会・日本自然 保護協会	シンポジウム 岩手の海岸の自然再生に向けて「大津波が岩手県の海岸植生・植物にもたらしたもの」	172	盛岡市アイーナ会議室	鈴木まほろ
2・24	岩手県環境生活部 自然保護課	グリーンボランティア研修会「岩手県内の絶滅危惧植物について」	29	盛岡市キャラホール（都南公民館）	鈴木まほろ
2・28	千葉県立中央博物館	千葉県博物館等職員研修会「大災害と博物館～岩手県の現場から考える博物館資料救済と関連する諸事情～」	89	千葉県立中央博物館	大石 雅之
2・28	県南広域振興局 保 健福祉環境部	いわい地域の流域連携交流会「環境に適応する縄文人」	33	一関地区合同庁舎大会議室	八木 勝枝
3・2	岩手県立図書館	企画展 いわてに生きる② 山とともに 関連講演会「岩手山と『日本名山図会』」	40	岩手県立図書館	齋藤 里香

イ. 学校教育との連携

(ア) 博物館展示活動を活用した学習利用の受け入れ

幼稚園、保育園は5月から11月まで利用があった。今年度の特徴として、学年、組単位での利用が多くなった。芝生広場での行事や昼食が定着してきている。小学校は、宮城県仙台市以北からの4月から9月

にかけての利用が目立った。東日本大震災に伴う福島原子力発電所事故の影響で、南東北を訪れていた学校が当館を数多く利用した。震災以降残念なことに、県内沿岸地区の利用が激減している。県内小学校の利用は秋に偏ってきている。中学校では弘前市内の学校の利用が増加した。また、秋田県の仙北市、横手市の中学校の利用が微増している。県内では、花巻市や葛巻町の中学校が利用するようになった。高等学校は4校の利用にとどまっているが、被災文化財等レスキュー事業の見学に軽米高等学校が来館し、当館の活動に対する理解を深めた。大学では、サイバー大学や昭和女子大など被災文化財等レスキュー作業に数日従事していただいた。気仙沼市立准看護学校の見学は初めてである。専門学校生の被災文化財等レスキュー作業体験も定時解説聴講などとともに定着してきている。支援学校も教科を超えて様々な意図のもと秋から冬にかけて小学部の利用が増加した。八幡平市立小学校は年次を重ねるたびに利用への工夫がみられた。全体的に震災の影響で、小学校は宮城県内からの増加が著しく、中学校は隣接の青森県の弘前市や八戸市、秋田県の横手市や仙北市の利用が増えている。残念なことに数年前まであった秋田県鹿角地方や青森県三八上北地方の利用がほとんどなくなった。幼稚園や保育所、支援学校の利用は年々増加している。教育普及活動に関する広報活動や講演活動がやっと芽を出して、教材貸出や教職経験者のボランティア応募が増えてきている。

表(2)-2 平成24年度 学習利用状況一覧

No.	月日	都道府県	校種	学校名	人数			利用目的・内容
					引率	生徒	計	
1	4・3	宮城県	小	仙台市立虹の丘小学校	2	0	2	修学旅行下見
2	4・3	宮城県	小	仙台市立八幡小学校	4	0	4	修学旅行下見
3	4・3	宮城県	小	大和町立鶴巣小学校	1	0	1	修学旅行下見
4	4・4	宮城県	小	大和町立落合小学校	1	0	1	修学旅行下見
5	4・5	宮城県	小	仙台市立南光台小学校	5	0	5	修学旅行下見
6	4・14	岩手県	大	岩手大学人文社会学部法学課程	5	80	85	社会見学
7	4・14	宮城県	小	大崎市立鹿島台小学校	6	0	6	修学旅行下見
8	4・17	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	1	1	2	校外学習
9	4・20	岩手県	中	葛巻町立江刈中学校	1	3	4	職場体験
10	4・21	岩手県	小	盛岡市立緑が丘小学校	3	0	3	遠足下見
11	4・22	宮城県	小	栗原市立瀬峰小学校	3	0	3	遠足下見
12	4・26	岩手県	小	盛岡市立東松園小学校	1	0	1	遠足下見
13	5・2	岩手県	小	盛岡市立東松園小学校	3	40	43	遠足
14	5・2	岩手県	小	八幡平市立大更小学校	4	61	65	社会科学習
15	5・2	岩手県	幼	盛岡市立乙部保育園	2	0	2	遠足下見
16	5・2	岩手県	小	盛岡市立松園中学校	1	3	4	社会科学習
17	5・2	岩手県	幼	盛岡市立乙部保育園	2	0	2	遠足下見
18	5・3	宮城県	小	栗原市瀬峰小学校	3	0	3	修学旅行下見
19	5・5	宮城県	小	栗原市立有賀小学校	2	0	2	修学旅行下見
20	5・8	宮城県	小	仙台市立七北田中学校	3	72	75	修学旅行
21	5・8	青森県	中	八戸市立下長中学校	1	29	30	自主研修
22	5・9	岩手県	小	岩泉町立国見小学校	6	7	13	遠足
23	5・10	宮城県	小	栗原市立有賀小学校	3	10	13	修学旅行
24	5・10	秋田県	中	横手市立横手西中学校	3	15	18	修学旅行
25	5・11	岩手県	幼	ハレルヤ保育園	3	35	38	園外活動
26	5・11	青森県	大	八戸工業大学バイオ環境工学科	5	58	63	校外学習
27	5・12	岩手県	小	盛岡市立月が丘小学校	3	0	3	遠足下見
28	5・17	宮城県	小	名取市立那智が丘小学校	7	58	65	修学旅行
29	5・18	青森県	中	八戸市立明治中学校	3	35	38	遠足
30	5・18	宮城県	中	仙台市立上杉山中学校	1	6	7	自主研修
31	5・20	岩手県	大	岩手大学人文社会科学部	1	16	17	博物館実習見学
32	5・23	宮城県	専	気仙沼市医師会附属看護学校	3	80	83	遠足
33	5・24	青森県	中	弘前市立第二中学校・祭り班	2	5	7	総合学習
34	5・24	青森県	中	弘前市立第二中学校・昔の暮らし班	0	5	5	総合学習
35	5・24	青森県	中	弘前市立第二中学校・岩手山班	0	6	6	総合学習
36	5・24	宮城県	中	仙台市立中田中学校	1	10	11	遠足
37	5・24	宮城県	小	仙台市立松陵小学校	4	14	18	修学旅行
38	6・2	岩手県	大	岩手県立大学外	6	62	68	研修

No.	月日	都道府県	校種	学校名	人数			利用目的・内容
					引率	生徒	計	
39	6・6	宮城県	小	仙台市立鹿島台小学校	9	92	101	修学旅行
40	6・6	宮城県	小	仙台市立加茂小学校	7	72	79	修学旅行
41	6・7	宮城県	小	大和町立鶴巣小学校	4	15	19	修学旅行
42	6・7	宮城県	小	名取市立愛島小学校	6	75	81	修学旅行
43	6・7	宮城県	小	栗原市立瀬峰小学校	6	50	56	修学旅行
44	6・8	岩手県	小	一関市立曾慶小学校	3	13	16	修学旅行
45	6・8	岩手県	小	宮古市高浜小学校	3	12	15	修学旅行
46	6・12	宮城県	小	栗原市立花山小学校	3	8	11	修学旅行
47	6・12	宮城県	小	栗原市立姫松小学校	3	8	11	修学旅行
48	6・12	宮城県	小	栗原市立長崎小学校	2	8	10	修学旅行
49	6・12	宮城県	小	栗原市立金田小学校	3	12	15	修学旅行
50	6・13	宮城県	小	仙台市立南光台小学校	8	117	125	修学旅行
51	6・13	宮城県	小	大和町立落合小学校	3	12	15	修学旅行
52	6・13	宮城県	小	仙台市立長町小学校	1	6	7	修学旅行
53	6・14	岩手県	小	一関市立涌津小学校	3	22	25	修学旅行
54	6・14	宮城県	小	仙台市立八幡小学校	7	117	124	修学旅行
55	6・14	宮城県	小	栗原市立志波姫小学校	5	63	68	修学旅行
56	6・15	宮城県	小	気仙沼市立九条小学校	6	61	67	修学旅行
57	6・15	宮城県	小	栗原市立宮野小学校	3	24	27	修学旅行
58	6・19	岩手県	大	岩手県立大学盛岡短大部	1	23	24	講義
59	6・19	東京都	大	サイバー大学世界遺産学部世界遺産科	0	1	1	職場体験
60	6・20	東京都	大	サイバー大学世界遺産学部世界遺産科	0	1	1	職場体験
61	6・20	岩手県	小	一関市立永井小学校	3	23	26	修学旅行
62	6・21	東京都	大	サイバー大学世界遺産学部世界遺産科	0	1	1	職場体験
63	6・22	東京都	大	サイバー大学世界遺産学部世界遺産科	0	1	1	職場体験
64	6・22	岩手県	小	盛岡市立緑が丘小学校	3	30	33	研修
65	6・24	岩手県	小	二戸市立金田一小学校	1	0	1	社会科見学下見
66	6・27	岩手県	幼	盛岡大学付属 松園幼稚園	4	27	31	園外活動
67	6・27	青森県	中	弘前市立石川中学校①	0	5	5	自主研修
68	6・27	青森県	中	弘前市立石川中学校②	0	5	5	自主研修
69	6・28	宮城県	小	仙台市立虹の丘小学校	4	64	68	修学旅行
70	6・28	宮城県	小	仙台市立松森小学校	4	47	51	修学旅行
71	6・28	宮城県	小	仙台市立台原小学校	8	111	119	修学旅行
72	6・28	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	7	0	7	下見
73	6・29	岩手県	小	盛岡聴覚支援学校	3	4	7	初等部研修
74	6・29	岩手県	小	二戸市立金田一小学校	2	35	37	社会科見学
75	7・4	岩手県	小	花巻市立宮野目小学校	4	60	64	総合学習
76	7・5	岩手県	幼	くるみ幼稚園 らくだ組	1	29	30	レク(保30+幼児6)
77	7・5	秋田県	中	仙北市立角館中学校	7	123	130	総合学習
78	7・5	宮城県	中	栗原市立金成中学校	1	12	13	自主研修
79	7・6	岩手県	幼	くるみ幼稚園 ゆり組	1	28	29	レク(保30+幼児8)
80	7・6	岩手県	幼	くるみ幼稚園 たんぽぽ組	1	34	35	レク(保33+幼児5)
81	7・6	岩手県	中	花巻市立東和中学校	6	90	96	総合学習
82	7・6	東京都	中	桐朋中学校	2	0	2	修学旅行下見
83	7・10	岩手県	小	岩泉町立小本小学校	5	13	18	社会科見学(2校合同)
84	7・10	岩手県	小	盛岡市立玉山小学校	1	7	8	
85	7・10	岩手県	小	雫石町立大村小学校	1	2	3	社会科見学
86	7・10	岩手県	中	野田村立野田中学校	3	37	40	総合学習
87	7・13	岩手県	幼	ハレルヤ保育園	4	36	40	園外活動
88	7・20	岩手県	特	盛岡青松支援学校	1	2	3	
89	7・22	岩手県	特	盛岡となん支援学校	1		1	
90	7・24	岩手県	幼	つつみ幼稚園	7	93	100	
91	7・31	宮城県	小	気仙沼市立新城小学校	1		1	修学旅行下見
92	7・31	宮城県	小	大崎市立沼部小学校	4		4	修学旅行下見
93	7・31	宮城県	小	大崎市立古川第五小学校	4		4	修学旅行下見
94	7・31	東京都	大	昭和女子大学	0	3	3	文化財レスキュー研修
95	8・1	東京都	大	昭和女子大学	0	3	3	文化財レスキュー研修
96	8・1	岩手県	小	盛岡市立生田小学校	2	3	5	総合学習
97	8・2	東京都	大	昭和女子大学	0	3	3	文化財レスキュー研修
98	8・3	東京都	大	昭和女子大学	0	3	3	文化財レスキュー研修

No.	月日	都道府県	校種	学校名	人数			利用目的・内容
					引率	生徒	計	
99	8・4	東京都	大	昭和女子大学	0	3	3	文化財レスキュー研修
100	8・5	東京都	大	昭和女子大学	1	3	4	文化財レスキュー研修
101	8・7	宮城県	高	宮城県 仙台三桜高等学校	2	14	16	部活動の一環(地質部)
102	8・8	宮城県	小	宮城県大崎市立池月小学校・上野目小学校	4		4	修学旅行下見
103	8・9	茨城県	高	茨城県立日立第一高等学校(ほか)	27		27	高校教諭による歴史研修会
104	8・17	岩手県	中	盛岡市立仙北中学校	1	4	5	下見(9/20 職場体験)
105	8・21	岩手県	中	盛岡市立上田中学校	1		1	下見
106	8・21	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	2		2	下見
107	8・21	東京都	中	学習院 中等科	2	37	39	地学部員合宿(部活動)
108	8・29	岩手県	中	一関市立東山中学校	0	7	7	自主研修
109	8・30	岩手県	小	盛岡市立本宮小学校	4	0	4	遠足の下見
110	9・12	宮城県	小	大崎市立古川第五小学校	7	114	121	修学旅行
111	9・12	岩手県	小	岩手県立一関清明支援学校千厩分教室	3	3	6	遠足
112	9・12	岩手県	小	一関市立千厩小学校	3	67	70	(合同)
113	9・13	宮城県	小	気仙沼市立階上小学校	5	34	39	修学旅行
114	9・13	宮城県	小	大崎市立沼部小学校	5	56	61	修学旅行
115	9・14	岩手県	高	岩手県立軽米高等学校	9	136	145	総合学習
116	9・14	岩手県	小	岩手県立青松支援学校(小学部)	6	9	15	社会科見学
117	9・20	岩手県	中	盛岡市立仙北中学校	1	6	7	職場体験
118	9・20	宮城県	小	気仙沼市立新城小学校	5	31	36	修学旅行
119	9・20	宮城県	小	大崎市立上野目小学校	3	10	13	修学旅行
120	9・20	宮城県	小	大崎市立池月小学校	3	12	15	(合同)
121	9・21	宮城県	小	南三陸町立志津川小学校	5	44	49	修学旅行
122	9・21	岩手県	小	滝沢村立鶴飼小学校	10	160	170	総合学習
123	9・25	岩手県	小	盛岡市立生田小学校	2	6	8	総合学習
124	9・26	岩手県	幼	社会福祉法人愛育園	1		1	下見(10/2)
125	9・26	岩手県	中	葛巻町立葛巻中学校	3	26	29	
126	9・27	宮城県	小	栗原市立玉沢小学校	3	20	23	修学旅行
127	9・27	岩手県	小	盛岡市立本宮小学校	6	115	121	遠足
128	9・28	宮城県	小	南三陸町立名足小学校	3	12	15	修学旅行
129	9・28	岩手県	幼	ハレルヤ保育園	4	38	42	遠足
130	10・2	岩手県	幼	社会福祉法人 愛育園	3	27	30	遠足
131	10・3	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	3	49	52	生活科(公共施設見学)
132	10・5	岩手県	幼	めぐみ幼稚園(年長)	2	33	35	園外活動
133	10・8	岩手県	小	岩手県立盛岡青松支援学校	1		1	校外学習下見(10/19)
134	10・11	岩手県	小	岩手県立盛岡青松支援学校	3	8	11	理科
135	10・18	東京都	中	桐朋中学校	3	56	59	修学旅行
136	10・19	岩手県	小	青松支援学校	4	2	8	校外学習 (小中合同)
137			中			2		
138	10・19	岩手県	小	奥州市立若柳小学校	2	20	22	社会科見学
139	10・23	岩手県	小	北上市立黒沢尻東小学校 1組	2	37	39	総合学習
140	10・23	岩手県	小	北上市立黒沢尻東小学校 3組	2	34	36	総合学習
141	10・24	岩手県	小	北上市立黒沢尻東小学校 2組	2	35	73	総合学習(2クラス合同)
142								
143	10・24	岩手県	中	岩手県立一関第一高等学校附属中学校	2	40	42	遠足
144	10・25	岩手県	小	盛岡市立生田小学校 3年生	1	7	18	社会科見学(2学年合同)
145								
146	10・30	岩手県	小	岩泉町立釜津田小学校 1~6年生	5	14	19	社会科見学
147	10・31	岩手県	小	二戸市立中央小学校	3	50	53	見学(校外学習)
148	11・2	岩手県	幼	ハレルヤ保育園	3	35	38	見学(園外学習)
149	11・7	岩手県	幼	みどりが丘幼稚園	2	19	21	見学
150	11・8	岩手県	幼	ハレルヤ保育園	2	13	15	見学
151	11・8	岩手県	小	青松支援学校	2	7	9	理科学習のため
152	11・9	岩手県	小	紫波町立佐比内小学校 4学年	2	6	8	社会科見学
153	11・14	岩手県	小	岩手県立青松支援学校 小学校	1	1	2	見学
154	11・14	岩手県	小	九戸村立伊保内小学校	3	12	15	社会科
155	11・15	岩手県	小	滝沢村立滝沢第二小学校	6	100	106	社会科
156	11・15	岩手県	小	盛岡市立巻堀小学校	2	11	13	総合学習
157	11・16	岩手県	中	岩手県立盛岡となん支援学校	2		2	下見(11/28)
158	11・20	岩手県	幼	愛育園	2	25	27	見学

No.	月日	都道府県	校種	学校名	人数			利用目的・内容
					引率	生徒	計	
159	11・20	岩手県	中	北上市立北上北中学校	4	39	43	校外学習
160	11・21	岩手県	小	八幡平市立寺田小学校	2	21	23	社会科見学
161	11・28	岩手県	中	岩手県立盛岡となん支援学校	5	4	9	見学
162	11・30	岩手県	小	金ヶ崎町立西小学校	4	21	25	社会科・理科学習
163	11・30	岩手県	小	岩手県立青松支援学校 小学部	1	1	2	見学
164	12・4	岩手県	高	盛岡峰南高等支援学校	2	10	12	校外学習
165	12・5	岩手県	専	専門学校 盛岡カレッジオブビジネス	0	29	29	学校行事
166	12・18	岩手県	中	那覇市・盛岡市 交流事業	3	38	41	交流事業
167		沖縄県	中		4	38	42	
168	12・20	岩手県	小	岩手県立青松支援学校 小学部	4	3	7	見学
169	12・23	岩手県	小	盛岡市立山岸小学校	1		1	社会科見学の下見
170	1・8	岩手県	高	岩手県立盛岡視覚支援学校	2	1	3	社会科
171	1・9	岩手県	小	盛岡市立北厨川小学校	1	0	1	下見 (1/31)
172	1・11	秋田県	高	明桜高等学校	2	17	19	見学
173	1・16	岩手県	幼	のぞみ幼稚園	7	32	39	園外学習
174	1・18	岩手県	小	盛岡市立山岸小学校	3	105	108	社会科
175	1・18	岩手県	幼	風の子保育園	2	17	19	見学
176	1・24	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園 年長	2	17	19	見学
177	1・31	岩手県	小	盛岡市立北厨川小学校	4	75	79	社会科
178	2・8	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	3		3	下見 (2/20)
179	2・13	岩手県	小	滝沢村立滝沢東小学校	1		1	下見 (2/14)
180	2・14	岩手県	小	滝沢村立滝沢東小学校	2	40	42	社会科
181	2・20	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	5	43	48	社会科
182	2・21	岩手県	小	盛岡市立厨川小学校	3	67	70	社会科
183	2・28	岩手県	中	岩手県立盛岡視覚支援学校 中等部	2	2	4	見学
184	3・8	岩手県	幼	あゆみ保育所	3	10	13	卒園遠足
185	3・8	岩手県	幼	青葉幼稚園	6	101	107	卒園遠足
186	3・29	宮城県	小	気仙沼市立九条小学校	3		3	下見 (6/14)
187	3・29	宮城県	小	気仙沼市立階上小学校	3		3	下見 (6/19)
合計					571	4,840	5,411	

(イ) 教材貸出

教材貸出単独は、八幡平市立寺田小学校への火熾しセット2と縄文土器10、雫石町立七ツ森小学校の火熾しセット10とまいぎりセット10、岩手県立盛岡北高等学校の風力計3であった。出前講座に合わせ、盛岡白百合学園小学校に算盤1、炭火アイロン1、黒電話1が貸し出しされた。合計9品目11点で、近年にない利用点数である。小学校3年生、4年生で行われる昔の暮らしの授業での活用や社会科や理科の授業で使用された。

表(2)-3 平成24年度 目的別利用状況一覧

目的	幼・保	小学校	中学校	高校	大学	専門学校	教員	合計
職場体験	0	0	2	0	10	0	0	12
総合的な学習	0	11	8	1	0	0	0	20
教科科目	0	21	2	0	3	0	0	27
研修	0	3	1	0	1	1	1	6
遠足・修学旅行	9	64	15	1	1	0	0	91
下見など	13	9	3	2	0	0	0	27
合計	22	108	31	4	15	1	1	183

ウ. 博物館実習

学芸員資格取得に係る館務実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、おもに県内大学に在学する者、また県出身者を対象としている。地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割について講義等を行っている。加えて、今年度は昨年度と同様に被災文化財等レスキュー

一の実務を設定した。実習期間と受け入れ人数等は次のとおり。

平成24年8月16日(木)～8月23日(木)(21日(月)休館日除く7日間)

岩手大学1名、盛岡大学5名、東北芸術工科大学1名、米沢女子短期大学1名、弘前大学1名、弘前学院大学1名、青山学院大学1名、千葉大学1名、鳥取大学1名、八洲学園大学1名 計14名

エ. 問合せ受付

日常的に学芸員が対応する問合せについて、集計を行っている。計画されている事業にかかわるものや外部研究者等との日常的な連絡以外、対応したすべての事項となっている。質問等は多岐にわたっており、即答で済む場合や回答に相当期間を要する場合など内容によってさまざまである。調査研究にかかわるものも含んでいる。

表(2)－4 平成24年度問合せ受付状況

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
地質	86	来館	32	地球史カレンダー、ジオパーク、宮古の地質図、遠野の続石、マメンキサウルス、水晶、松園の地質、付加体と海洋プレート層序
		電話	38	ハナイズミモリウシ、貞観地震、「大地を楽しむ旅」展、被災遺構、鰭脚類化石、砂金採集、鮮新世の古地理図、「砂」展、十和田a火山灰
		FAX、メール、手紙、その他	16	宮古層群ウニ化石、天然記念物緊急調査、北上低地帯地質論文、サメの歯化石、イギリス海岸工事、鯨骨格所在推定、海洋底移動
生物	222	来館	49	写真の鳥獣名、羽から種名を、コゲラの飼育法、標本閲覧、苗木の同定、ニセケバエの企業被害防止、透明標本作成法
		電話	56	ジオラマとホワイトキューブの違い、ハギマシコとベニマシコの特徴、冬に咲くアサガオ、海岸植物への津波の影響、東日本大震災後の海浜性昆虫について
			117	絶滅動物について、大地震3日前のカラス大群の異常行動、石灰岩植物について、折爪のヒメボタルについて、五郎兵衛穴について
考古	28	来館	5	石器判定 ガラス玉類 蕨手刀 和銅開珎
		電話	14	土偶、立石遺跡、堅果類、埴輪、萩内遺跡腕輪、土偶の年代、石笛、魃、土製仮面 たたら製鉄 蕨手刀 遺跡分布
		FAX、メール、手紙、その他	9	土偶、埴輪、腕輪、貝塚、糞石
歴史	277	来館	58	仏画の内容、仏像の価値、千石船、資料の保管方法、アテルイ
		電話	192	南部鉄器、街道、日本刀、南部家、古文書、仏像、ルーツ
		FAX、メール、手紙、その他	27	盛岡藩出身者の経歴、三陸津波、棟札、古文書、家紋
民俗	108	来館	22	苧麻から繊維をとる方法、お産の現況と歴史、稲架の全国事例、染め型紙の文様、神楽の映像制作方法、明治時代の夜会服など
		電話	52	山田町の相撲のルーツ、人形浄瑠璃、皿屋敷伝説、北上市のセリ栽培の歴史、阿弥陀信仰、明治の三陸大津波など
		FAX、メール、手紙、その他	34	在来種養蜂、神風講、行事菓子、斎藤真内閣の書、肥やし作り、お盆の共同飲食、地獄絵、江戸時代の農耕図、岩手の方言など
文化財科学	237	来館	18	鉄器の分析・保存処理、ボランティア、琥珀の分析、被災文化財の修復、漆器の分析法、くん蒸など
		電話	127	被災文化財の修復方法・修復状況、くん蒸、環境保全、金属資料分析・保存処理、調湿材(剤)、漆器の分析、非破壊分析など
		FAX、メール、手紙、その他	92	被災文化財の修復方法・修復状況、ボランティア、くん蒸、金属資料の分析法、漆器の分析法など
合計	958			

(3) 調査研究活動

調査研究活動は、博物館の根幹をなす活動である。各研究テーマは小テーマ、および小テーマを包括する研究領域を大テーマとした。調査研究テーマの推進にあたって、外部委託した事業もあった。年度末には「館内調査研究報告会」が実施され、研究の進捗状況や成果の報告があった。また、研究成果は学術情報として『岩手県立博物館研究報告』第30号、『岩手県立博物館調査研究報告書』第29冊のほか、学会、学術誌等で発表された。文化財科学部門では、外部機関からの研究受託を実施し、考古学部門では前平泉文化の研究を進めた。なお、当館の調査研究活動の一部は研究協力員によって支えられている。調査研究を進めるにあたって、外部団体の助成金により進められた研究テーマもあった。

ア. 調査研究活動の概要

地質部門3テーマ、生物部門6テーマ、考古部門4テーマ、歴史部門4テーマ、民俗部門7テーマ、文化財科学部門7テーマで調査研究活動が推進された。

表(3)－1 平成24年度 調査研究テーマ

部門等	大 テ ー マ	小 テ ー マ	氏 名	内 容
地 質	地域地質に関する研究A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	大石雅之 吉田 充	宮古市山口鉱山でスカルン鉱床産出鉱物を確認した。岩泉町、久慈市、洋野町、野田村でジオサイトとなるポイントにおいてジオパーク関連調査を行った。田野畑村と宮古市で下部白亜系宮古層群について概査を行った。久慈市枝成沢の上部白亜系久慈層群のカキ化石などの産地の概査を行った。久慈市小久慈町の上部白亜系久慈層群玉川層より発見された陸生脊椎動物群の産地の調査を進め、報告した(日本地質学会第119年学術大会、堺市)。陸前高田市で完新世堆積物を調査し、陸前高田市気仙川支流・一関市大東町猿沢川支流・大船渡市三陸町甫嶺川・大槌町大槌川支流・宮古市田代川支流・一関市室根町津谷川支流で、流域内岩石の風化侵食により流れ出した砂金などの重い砂の産状を確認した。三陸沿岸の津波被災遺構の保存について論説した(岩手の地学, 第42号)。陸前高田市立博物館の地質標本救援事業について報告し(日本地質学会第119年学術大会、堺市; 化石, 第93号)、旧陸前高田市立矢作小学校に保管されていた飯森産ペルム紀化石標本の古生物学史的意義について報告した(岩手県地学教育研究会平成24年度研究発表会、盛岡市; 化石, 第93号)。
	地域地質に関する研究B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	吉田 充 大石雅之	金ヶ崎町で六原扇状地の調査を進め、段丘の分布や堆積物を調べた。一関市花泉町金流川の砂金の産状を確認した。二戸市白鳥川流域で中新統門ノ沢層・末ノ松山層の概査を行った。
	古生物学的研究	海生哺乳類に関する古生物学的研究	大石雅之	石巻市鮎川の日本鯨類研究所の実験場の標本整理を進めた。鯨類標本を含む三陸沿岸の自然史標本の被災の状況を報告した(日本セトロゾー研究会第23回大会、松島町)。野田村米田海岸のマッコウクジラ骨格、秋田県八竜町で採取されたヒゲクジラ骨格を確認した。千葉中央博物館所蔵千葉県の更新統産および国立科学博物館所蔵現生ザトウクジラ頭骨を調査した。
生 物	地域生態系の研究	北東北三県のブナ林を中心とした森林生態系の生物相に関する研究	藤井忠志 藤井千春 鈴木まほろ	藤井忠志: クマゲラの生息域で繁殖活動等を行っているシノリガモの生態調査を実施し次年度も継続する。藤井千春: 岩泉町龍泉洞にて生物調査を継続中であるが、トビムシ類 <i>Xenyllia</i> sp. (ヒラタトビムシ属の一種) が新種の可能性が出てきた。鈴木: 盛岡市玉山区藪川の外山第一国有林において、東北地方では初記録となるシバタカエデを発見し、岩手県植物誌調査会ニュースレターNo. 43で報告した。
	日本産鳥類の生態学的研究	北東北三県における本州産クマゲラ個体群の生息状況およびその生態に関する研究	藤井忠志	秋田県森吉山ノロ川における1つがいのクマゲラ繁殖活動および就峙行動の観察を本州産クマゲラ研究会の支援の下、継続実施した。つがいの高齢化により、繁殖活動を開始したものの、雌個体が繁殖活動を中断して、昨年に引き続き失敗に終わった。また、雌個体のねぐら木を特定できたものの、強風により倒壊し、新たな雌のねぐら木を調査中である。過去、30年間における北東北でのデータをもとに調査研究報告書第29冊・総説「日本のクマゲラ」として刊行した(平成24年9月30日付)。

部門等	大 テ ー マ	小 テ ー マ	氏 名	内 容
生物	国内および県内における鳥類分布に関する研究	岩手県産の鳥相に関する研究	藤井忠志	前年度に引き続き、雫石町内で繁殖活動を行ったサンコウチョウの特別事例を短期間ながら観察し、「2 個体の雄が関与したサンコウチョウの繁殖行動の観察 藤井忠志・渡邊治」として論文投稿、受理された(Bird Research Vol.8 pp.25-30 2012 ISSN 1880-1596)。また、日本鳥類目録改訂第7版に係る岩手県分のリストを日本鳥学会に提出(2012年9月刊行済み)。岩手県産鳥類の出現個体についての追記・更新を行うと同時に、岩手県版レッドデータブック改訂に伴う原稿の分担執筆を行った。
	発光生物と環境指標生物に関する研究	東日本における発光生物を中心とした生態環境に関する研究	藤井千春	三陸沿岸のエゾイソアインメの発光撮影を実施し、エゾイソアインメの長時間の発光撮影に成功した。(東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋センター報告) また、駿河湾産マルアオメエソの繁殖と発光との関係の解析を進めた。(東京大学大気海洋研究所学際連携研究報告。日本魚類学会例会及び東京大学大気海洋研究所共同利用研究会口頭発表) また、二戸市折爪岳でザウテルアカイボトビムシの発光を確認し、北上山地洞穴群のアカイボトビムシ属非発光種と合わせて、次年度も継続研究する。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする生態系に関する研究	鈴木まほろ	宮古市の津軽石川河口において、絶滅危惧種のマルミノシバナの調査と系統保存のための緊急移植作業を行った。また岩手県植物誌調査会や県立大船渡高校自然科学部と共同で、岩手県沿岸部の津波をかぶった土地約20ヶ所の植物相の調査を行った。多くの場所で帰化植物が増加している一方、近年は記録のなかった絶滅危惧種が多数発見された。これらの結果を植生学会・日本自然保護協会シンポジウムや第60回日本生態学会大会において発表した。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の植物相の研究	鈴木まほろ	葛巻町の放牧地から発見された <i>Veronica officinalis</i> について現地調査を行い、国内での初帰化事例として、小守一男氏との共著で日本植物分類学会『分類』誌に短報を投稿、受理された(第13巻1号)。国内初記録となるため、和名としてセイヨウグンバイナズナを提案した。他に、岩手県植物誌調査会との共同事業により県内の植物相調査を進めた。
考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護のあゆみ	斎藤邦雄	岩手大学草間先生が行った、県内の埋蔵文化財調査の黎明期である昭和30~40年代の発掘調査事例について調査した。併せてガラス製品に焦点をあて縄文時代~古代末までの県内出土事例を集成した。
	縄文時代の考古学的研究	東北地方の土偶についての研究	八木勝枝	主に東北地方の土偶を集成し、編年研究を行った。成果は第63回企画展『土偶まんだら』展において公表した。また、大阪歴史博物館に所蔵されている陸前高田市瀬澤貝塚出土土偶の資料化を行った。
	歴史時代の考古学的研究	平泉文化についての研究	斎藤邦雄 羽柴直人 八木勝枝	紫波町弥勒地経塚遺跡の調査をおこない、12世紀平泉期の経塚であることを確認した。
中・近世生活史の考古学的研究		羽柴直人	中世、近世の陶磁器、土器、金属製品について、新事例等の資料化、紹介、集成を継続しておこなった。	
歴史	近世史の研究	八戸藩成立期の家臣団の形成についての研究	佐々木勝宏	紫波町の沢口観音堂の御堂と信仰形態の変遷についてまとめ、志和観音別当成海家の文書から志和代官所での年中行事や参勤交代の送迎などについて紹介し、当館研究報告30号で成果を公表した。
	近世史の研究	岩手県内に残された藩政期の古文書資料の研究	阿部勝則	陸前高田市立図書館に所蔵されていた近世・近代の古文書資料の整理作業を行った。
	中世史の研究	中世の出土模鑄銭の研究	阿部勝則	県内の出土銭貨の出土事例について、報告書などにより事例の集合作業を継続して行った。
	前近代における美術工芸の研究(古美術)	藩政期の美術工芸の研究	齋藤里香	盛岡藩の絵師川口月嶺に関する盛岡藩の記録類や他機関所蔵資料の調査、館蔵品の整理等を行い、『岩手県立博物館だより135号』及び県博日曜講座で成果を公表した。
	陶磁器に関する研究	岩手県内出土の陶磁器についての研究	笠原雅史	大瀬川遺跡と柳田館遺跡出土の陶磁器について再整理を行い、遺跡の年代や当時の交易について若干の考察を加え、当館研究報告30号で成果を公表した。
	近現代史の研究	岩手県内の近代化遺産に関する研究	笠原雅史	岩手銀行旧本店(旧中ノ橋支店)設計に関わった辰野金吾や葛西萬司について、資料を収集した。

部門等	大 テ ー マ	小 テ ー マ	氏 名	内 容
民俗	有形民俗資料に関する研究	漆に関連する生業及び用具に関する研究	瀬川 修	漆絵木皿(菓子盆)の形態・デザインについて、二戸市うるし振興室、浄法寺歴史民俗資料館、八幡平市博物館の所蔵資料を用いて検討した。
		染織に関する研究	川向富貴子	奥州市江刺区の染屋旧蔵(館蔵)の型紙デザイン原案を再整理し、販路について調査した。
		岩手の民具一般に関する研究	瀬川 修 川向富貴子 目時和哉	・特に衣食住に関する民具を収集し、その分類と用途・時代・特徴について調査した。 ・新たに発見された天明3年田山曆資料の検討を行い、トピック展として資料の公開と新たな知見を公表した。
	無形民俗資料に関する研究	岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	瀬川 修 川向富貴子 目時和哉	・花巻市石鳥谷町五大堂の光勝寺星供並びに五大尊蘇民祭、奥州市水沢区佐倉河の加勢祭の現地調査と記録撮影を行った。 ・昭和56年受け入れの館蔵おしらさまの来歴について明らかにした。
	無形民俗資料に関する研究	画像資料の保存活用に関する研究	川向富貴子 瀬川 修	館蔵森口多里コレクション写真について、他の形態資料の内容と照合し、撮影場所や日時、撮影対象、撮影者(著作権者)等を明らかにし情報の蓄積を図った。また、肖像権者から画像内容の確認を行った。
	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	瀬川 修	江戸時代の大地震・大津波による民家の被害について、文献調査するとともに、当時の民家の規模・形式について調査した。
	地域研究	沿岸部の生活・文化に関する総合的な研究	目時和哉	本県沿岸部各地に所在する、近代の津波に関連するモニュメントの現地調査を行い、当時発行されていた文献とあわせて、近代の本県沿岸部における人々の自然災害との関わり方について検討を行った。また陸前高田市で使用されていた被災民俗資料の整理・安定化処理と並行し、気仙地方における生業について調査を行った。
文化財科学	文化財の保存環境に関する研究	環境に配慮した文化財の湿度環境保全方法の開発	赤沼英男 川又 晋	館内設置データロガーのデータ収集および整理、施設内温湿度に関する職員からの情報収集等を行った。
		岩手県立博物館における博物館資料生物学的劣化防除システムの開発	川又 晋 赤沼英男	委託企業による環境調査報告書および職員から提供された情報等を集約し、害虫菌生息動向の把握に努めた。資料・資材保管状況等を確認し、塵埃等生息要因の除去および侵入経路遮断、点検といった生物被害防止のための基礎的作業の効率化を図れるよう、館内環境の改善に着手した。
	文化財の製作技法に関する研究	前近代の鉄製文化財の製作技法に関する研究	赤沼英男	東北地方の古代～近世の遺跡、および北海道の擦文・オホーツク・アイヌ文化期の遺構から出土した鉄器・鉄滓の金属考古学的調査を行い、地金の製造法と組成に基づく分類結果をまとめ、発掘調査報告書にその成果を報告した(『ヲチャラセナイチャン跡、ヲチャラセナイ遺跡』厚真町教育委員会 他1編)。トルコ共和国カマン・カレホユック遺跡前・中期青銅器時代出土資料の金属考古学的調査を実施し、その成果を第22回トルコ調査研究会(201年12月 東京都武蔵野市)で発表した。
		前近代の非鉄金属文化財の製作技法に関する研究	赤沼英男 川又 晋	北海道の近世アイヌ文化期の遺構から出土した装身具の組成を調査し、その結果を発掘調査報告書にまとめた(『オニキンベ4遺跡』厚真町教育委員会、2013)。カマン・カレホユック遺跡出土銅滓の金属考古学的調査結果を第22回トルコ調査研究会(2012年12月、東京都武蔵野市)で報告した。
		前近代における彩色・塗膜技法の変遷解明	赤沼英男 川又 晋	三内丸山遺跡縄文時代中期の遺構から出土した土器塗彩赤色塗膜の断面構造を調査し、その結果を報告した(『三内丸山遺跡40』青森県教育委員会、2013)。中世漆器の下地調整技法の特徴をまとめ、日本文化財科学会第29回大会(2012年6月、京都市)、文化財保存修復学会第34回大会(2012年7月、東京都)、2012 IIC Congress(2012, Vienna)で報告した。
	文化財の保存修復に関する研究	有機物を素材とする資料の保存処理方法の開発	川又 晋 赤沼英男	出土木製品の保存処理に関する基礎的手法の習得に努め、実資料を用い保存処理実験を実施した。
		海水損資料の安定化処理方法の確立	赤沼英男 川又 晋	海水損した民具資料の安定化処理方法を民俗部門と共同で確立し、被災資料の処理を行った。岩手県立博物館で実施している被災文化財の安定化処理方法を被災機関に伝達し、被災機関における安定化処理の進展を図った。その成果の一部を共同で研究発表し(2012 International Symposium on Cultural Heritage Conservation, Tainan, Nov.2012)、国際協力機構(JICA)が主催する大エジプト博物館保存修復センター(GEM-CC)プロジェクト保存修復技術移転・人材育成事業の一環として行われた当館研修会で概説した。

表(3)－2 調査研究活動に関わる製作・同定・借り上げ

部 門	事 業 名	内 容
地 質	岩石鉱物薄片製作	岩手県内の河川で採集した礫資料について、偏光顕微鏡観察用薄片 11 枚を製作した。
生 物	植物等標本同定	蘚類標本 27 点を関太郎氏(広島大学名誉教授)に同定していただいた。
文化財 科学	石質系文化財等構成鉱物の同定法およびデータ解析法に係る指導・助言	金属生産関連炉跡から出土した土製資料の構成鉱物同定を、岩手大学教育学部教授土谷信高氏に依頼した。
	銅生産過程での金属鉄生成条件に関する指導・助言	銅生産過程での金属鉄生成条件に関する指導・助言を、早稲田大学理工学部教授伊藤公久氏に依頼した。
	X線構造解析	遺跡出土鉄器の鍍層中に存在するセメントタイトの同定を委託した。
	マイクロスコープ借り上げ	文化財表面観察用デジタルマイクロスコープをリースし、文化財の表面観察およびデジタル画像撮影を行った。

イ. 館内調査研究報告会

日時：平成 25 年 3 月 4 日（月）9：30～16：00 会場：講堂 *代表発表者

I 地震・震災・被災地・レスキュー関連（個別調査研究）

- ①津波被災地で 2 年目に何が生えてきたか（鈴木まほろ）
- ②近代津波モニュメントについて（目時 和哉）
- ③野田村蒲沢遺跡の調査（考古部門 *羽柴 直人）
- ④岩手県指定文化財「吉田家文書」の調書作成・デジタル化作業（笠原 雅史）
- ⑤古文書資料の整理のあり方～文化財レスキューより～（阿部 勝則）
- ⑥被災金属資料からみた古代・中世の東北地方太平洋岸地域における物質文化交流（赤沼英男）
- ⑦早坂一郎との記録からみる鳥羽源藏の初期の古生物学への貢献（大石 雅之）
- ⑧安政三年地震被害と当時の漁村の民家について（瀬川 修）

II 一般調査研究（個別調査研究）

- ⑨2 個体の雄が関与したサンコウチョウの繁殖（藤井 忠志）
- ⑩岩手の発光生物（IV）（藤井 千春）
- ⑪重い川砂（吉田 充）
- ⑫大和宗大乗寺のおしらさまについて（川向富貴子）
- ⑬志和観音別当成海家文書「年中行事 成海主」について（佐々木 勝宏）
- ⑭川口月嶺関係資料の問題点（齋藤 里香）
- ⑮大阪下郷コレクションに見る気仙郡誌掲載瀬澤貝塚出土土偶（八木 勝枝）
- ⑯弥勒地経塚の調査（羽柴 直人）
- ⑰県内に見られる古代ガラス（斎藤 邦雄）
- ⑱生物学的劣化に関わる事例とその検証（川又 晋）

III 部門別調査研究事業報告

地質・生物・考古・歴史・民俗・文化財科学部門

ウ. 調査研究成果の公表

(ア)『岩手県立博物館研究報告』第 30 号

(A4 判・114 頁・600 部・平成 25 年 3 月 25 日発行)

赤沼英男・熊谷 賢「陸前高田市立博物館所蔵被災手刀の金属考古学的解析」1－11 頁

目時和哉・吉田 充・赤沼英男・熊谷 賢「陸前高田市立博物館所蔵被災金鉱石の意義」13－22 頁

目時和哉・赤沼英男・川又 晋・武田昭子「被災大工道具の安定化処理方法について」23-32 頁

目時和哉「石に刻まれた明治 29 年・昭和 8 年の三陸沖地震津波」33-45 頁

羽柴直人「陸前高田市矢作町出土の内耳鉄鍋」47-56 頁

笠原雅史「大瀬川館遺跡と柳田館遺跡出土の陶磁器について」57-62 頁

佐々木勝宏「沢口観音堂の変遷」63-81 頁

佐々木勝宏「志和観音別当成海家文書」83-99 頁

瀬川 修「奥州市江刺区大工棟梁佐藤松之助の建築資料について」101-113 頁

(イ)「岩手県立博物館調査研究報告書」第 29 冊「総説 『日本のクマゲラ』」

(A4 判・39 頁・500 部平成 24 年 9 月 30 日発行) 岩手県立博物館生物部門

クマゲラ *Dryocopus martius* は、明治期、函館在住の貿易商・ブラキストンが津軽海峡を境に北海道と本州との鳥獣相が異なるという異色の学説「ブラキストン線」を根拠に、本州には生息しないキツツキに分類されていた。しかし、昭和初期の八幡平での捕獲および昭和 50 年の森吉山での初撮影、さらにその後の調査により、本州にもわずかながら定着していることが判明した。青森県と秋田県の県境にまたがる世界最大級のブナ自然林・白神山地に春秋林道問題が浮上した際に、開発に待ったをかけ、結果、日本初の世界自然遺産指定・登録にも寄与したシンボリック鳥類でもある。本総説は、クマゲラのみならず世界の希少キツツキおよび日本のキツツキにも言及し、謎の生態を当館生物部門職員および本州産クマゲラ研究会が過去 30 年間の調査データから解析し、論じた解説書となっている。その他、北海道および本州のクマゲラの生態写真もオールカラーで、さらに本州における研究小史などに触れ、読み物としても興味深いものになっている。

(ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作 (*共同発表の際の当館職員)

a. 口頭発表等

瀬川 修：岩手県内の安政 3 年地震の地震・津波被害について。日本民俗建築学会第 39 回大会，2012 年 5 月，仙台市。

藤井千春：光の中へ～ひめほたるフェスティバル・光る生きもの展に向けて～。こどもひかりフォーラム，2012 年 6 月，仙台市。

大石雅之：被災した自然史標本の現状。日本セトロジー研究会第 23 回大会，2012 年 6 月，宮城県松島町。

武田昭子・米澤雅美・赤沼英男*・土谷信高：若宮大路周辺遺跡出土中世漆器にみる下地調整技術について。日本文化財科学会第 29 回大会，2012 年 6 月，京都市。

藤井千春：光の中の宮澤賢治。第 13 回グスコープドリの大学校，2012 年 7 月，一関市。

武田昭子・赤沼英男*・土谷信高：塗膜断面構造と下地鉱物混和剤の鉱物組成による中世漆器分類の試み。文化財保存修復学会第 34 回大会，2012 年 7 月，東京都。

平山 廉・藺田哲平・佐々木和久・小林怪次・滝沢利夫・楠橋 直・安藤寿男・三宅優佳・大倉正敏・大石雅之*・真鍋 真・對比地孝亘：岩手県久慈市の上部白亜系久慈層群玉川層より発見された陸生脊椎動物群。日本地質学会第 119 年学術大会，2012 年 9 月，堺市。

目時和哉・鈴木まほろ：岩手県における博物館等施設の被災状況と機能再生への取り組み。平成 24 年度日本博物館協会東北フォーラム，2012 年 9 月，盛岡市。

大石雅之：陸前高田市立博物館地質標本救済事業。日本地質学会第 119 年学術大会，2012 年 9 月，堺市。

猿渡敏郎・岩田恵理・藤井千春*・倉石信：駿河湾におけるアオメエソの生態～体長，体重，生殖腺指数の月別変化～。日本魚類学会例会，2012 年 9 月，下関市。

Takeda A, Akanuma H* & Tsuchiya N: Analysis of admixed grounds used for Medieval Urushi in Japan. *The Decorative: Conservation and the Applied Arts. 2012 IIC Congress, September, 2012, Vienna.*

藤井千春*・山内信弥・猿渡敏郎・岩田恵理・倉石 信・春本宜範：飼育下における底生魚の発光観察—マルアオメエソ，エゾイソアイナメの例—。東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会，2012年10月，柏市。

Kamba N, Kumagai M & Akanuma H*: Stabilizing Treatment of Cultural Assets Damaged by Tsunami. 2012 *International Symposium on Cultural Heritage Conservation*, November, 2012, Tainan.

赤沼英男：カマン・カレホユック遺跡第 IIIc 層および第 IVa 層文化期における鉄と銅の生産活動—出土資料の金属考古学的解析をとおして—。第 21 回トルコ調査研究会，2012年12月，東京都。

藤井千春：ある博物館レスキュー—震災前・後・これから—。陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト月例講演会，2012年12月，横浜市。

大石雅之：鳥羽源藏の初期の古生物学への貢献—早坂一郎との記録—。岩手県地学教育研究会平成 24 年度研究発表会，2013年2月，盛岡市。

赤沼英男：文化財・資料の保存と救済のための連携について—岩手県立博物館における救援活動を通して—。大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業シンポジウム，2013年3月，盛岡市。

鈴木まほろ*・岩手県植物誌調査会・岩手県立大船渡高等学校自然科学部：大津波 1 年後に何が生えてきたか—岩手県沿岸南部の記録—。第 60 回日本生態学会大会，2013年3月，静岡市。

b. 論文・報文

赤沼英男（2013）三内丸山遺跡皿状土器赤色塗膜の自然科学的調査結果。三内丸山遺跡 40, pp 160-164. 青森県教育委員会。

赤沼英男（2013）ヲチャラセナイ遺跡出土金属器の金属考古学的調査結果—中世アイヌ文化期における金属器の再利用—。ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡, pp 93-124. 厚真町教育委員会。

赤沼英男（2013）川原遺跡出土鉄関連資料からみた鉄・鉄器の生産と流通。釜石市遺跡分布詳細調査報告書 3, pp 118-148. 釜石市教育委員会。

赤沼英男*・櫻木晋一（2013）ベトナム出土銭貨の自然科学的調査結果。昭和女子大学国際文化研究所紀要 16: 153-173.

Amano T, Akanuma H* & Kharinskiy AV (2013) Study on the production region of iron goods and the roots of forging technology of the Okhotsk Culture. *Bulletin of the Hokkaido University Museum* 6: 1-17.

藤井千春*・猿渡敏郎（2012）三陸海域におけるエゾイソアイナメの発光に関する生理学的研究。平成 24 年度東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター外来研究員報告書，受付番号 126: 1-3.

藤井忠志*・渡邊 治（2012）2 個体の雄が関与したサンコウチョウの繁殖行動の観察。 *Bird Research* 8: 25-30.

小守一男・鈴木まほろ*（2013） *Veronica officinalis* L.（コモンスピードウエル）の帰化。分類 13 (1): 37-38.

大石雅之（2012）津波災害の被災遺構の保存について。岩手の地学 42: 49-56.

大石雅之*・熊谷 賢・永広昌之・真鍋 真・本多文人（2013）旧陸前高田市立矢作小学校に保管されていた飯森産ペルム紀化石標本の古生物学史的意義。化石 93: 123-130.

大石雅之*・吉田 充*・永広昌之・真鍋 真（2013）陸前高田市立博物館地質標本救済事業と岩手県における博物館の災害復興とそれに関連する諸事情。化石 93: 59-74.

Tadauchi O, Fujii C* & Kanazawa K (2012) Overview of the Quake's Effects on the Entomological Society in Japan. *American Entomologist* 58: 142-144.

瀬川 修（2012）「岩手県陸前高田市における東日本大震災・津波の被害状況について」民俗建築 141: 64-71

瀬川 修（2012）「岩手県内の安政 3 年地震の地震・津波被害について」民俗建築 142: 6-11

目時和哉・鈴木まほろ・赤沼英男（2012）東日本大震災被災ミュージアム再生への取り組み。博物館研究 47(10): 25-28.

八木勝枝（2012）「北上川上・中流域における後期初頭土偶の型式」『土偶と縄文社会』雄山閣 pp. 139-159

c. その他の著作

- 藤井千春（2012）光の中へ。ブドリとネリの会会報 44: 2-3. 石と賢治のミュージアム.
- 藤井忠志（2012）幻の鳥 クマゲラとともに. みどりの風 31: 14-15.セブン-イレブン記念財団.
- 大石雅之（2012）陸前高田市立博物館地質標本救済事業. 日本地質学会 News 15 (5): 17-19.
- 大石雅之・吉田 充（2012）平成 22 年度地質観察会報告「古生代末生物絶滅の証拠をもとめて」. 岩手の地学 42: 105.
- 大石雅之・吉田 充（2012）平成 23 年度地質観察会報告「白亜紀の豊かな海と津波の跡」. 岩手の地学 42: 108.
- 多田内 修・藤井千春*（2013）東日本大震災被災修復標本データベース(岩手県陸前高田市立博物館所蔵修復被災昆虫類標本データベース). 昆虫学データベース(KONCHU), 九州大学.
- 土谷信高・大石雅之*・渡辺 亨（2012）日本地学教育学会第 66 回全国大会（岩手大会）巡検 A コース「大船渡～陸前高田」案内書. 平成 24 年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第 66 回全国大会岩手大会講演予稿集, pp 186-215. 日本地学教育学会.
- 吉田 充・大石雅之（2012）平成 22 年度地質観察会報告「川砂から鉱物を探す」. 岩手の地学 42: 106.
- 吉田 充・大石雅之（2012）平成 23 年度地質観察会報告「赤金鉱山跡を訪ねて」. 岩手の地学 42: 107.
- 齋藤里香（2012）「町医者安藤昌益と川村寿庵」『現代に生きる安藤昌益』御茶の水書房 pp. 185-197

エ. 研究受託実施状況

文化財の内部構造、素材、製作技法等の解明を目的とする自然科学的調査を実施することにより、過去の物質文化交流を解明する上での重要な情報を得ることができる。同時に文化財の劣化状況を把握し、的確な修復を施すことが可能となる。文化財の自然科学的調査結果に基づいた保存処理を実施している機関は全国的にみてもきわめて少なく、その実践には多くの困難を伴う。

このような状況をふまえ岩手県立博物館では、岩手県立博物館で実施した調査研究成果の還元と学術情報の一層の収集を目的として、平成 2 年度から文化財の自然科学的調査・保存処理に関する研究受託を実施している。平成 24 年度の研究受託実施実績は表（3）— 3 に示すとおりである。一連の研究を通して得られた学術情報に、人文社会科学の研究成果を重ね合わせ、文化財の保存に取り組むとともに、失われた過去を解明するうえでの基礎資料となる学術情報の発信に努めている。

表(3) — 3 平成 24 年度研究受託実地実績

受託内容	件数	委託機関
鉄製品の保存処理	19	埋蔵文化財センター、教育委員会、大学
鉄製品の科学分析	6	埋蔵文化財センター、教育委員会、大学
銅製品の保存処理	7	埋蔵文化財センター、教育委員会
銅製品の科学分析	1	埋蔵文化財センター
木製品の保存処理	4	埋蔵文化財センター、教育委員会
木製品の科学分析	1	教育委員会
漆製品の保存処理	2	教育委員会
漆製品の科学分析	1	教育委員会
鉄滓の科学分析	3	教育委員会、大学
土製品の科学分析	2	教育委員会
ガラス製品の科学分析	2	埋蔵文化財センター、教育委員会
顔料の科学分析	1	埋蔵文化財センター
考古資料技法修復保管管理	1	教育委員会
民俗資料技法修復保管管理	1	教育委員会
押し葉標本技法修復保管管理	1	教育委員会
遺跡出土遺物 X 線撮影	1	教育委員会
資料の生物学的劣化防除	4	教育委員会、記念館

オ. 前平泉文化関連遺跡調査事（前平泉文化の研究）

当館考古部門では、岩手県教育委員会の委託により平成12年度から奥州藤原氏関連に関連した遺跡の考古学調査を実施してきた。従前は、衣川流域及び人首川流域における遺跡の分布調査を行い、奥州藤原氏関連の遺跡分布の把握を行ってきた。

平成24年度は、調査地域を平泉と密接な関連のある紫波町域を対象とした。地元研究者から情報提供があった、紫波町土館地内に所在する積石状塚の調査を実施し、12世紀の未周知の経塚であることを明らかにした。既に盗掘を受けており、遺物の遺存状態は良好でなかったが当地域での新たな経塚の発見は非常に意義深いものである。その成果については、館内調査研究報告会等で報告を行っている。

カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料9,000件について、データ整理・整形を行い、提供した。

キ. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成11年度から実施している。研究協力員としての活動期間は3年間で、申請・審査を経て更新することができる。平成24年度は7名の更新が承認された。平成25年3月末現在で21名（下記一覧、順不同）となっている。

○研究協力員（更新）

- 1 飯坂 真紀（県立博物館協議会委員）：民俗慣行と当館所蔵資料の有効活用法の研究〔民俗部門〕
- 2 岡田 現三（団体職員）：北東北の民俗芸能〔民俗部門〕
- 3 女鹿 潤哉（盛岡第一高等学校教諭）：文献史学からみた古代北方社会における物質文化交流の変遷〔文化財科学部門〕
- 4 土谷 信高（岩手大学教育学部教授）：岩石・鉱物を素材とする文化財の製作技法および劣化状態に関する研究〔文化財科学部門〕
- 5 関 博允（いわて三陸ジオパーク推進協議会）：鉄製文化財の金属考古学的方法による研究〔文化財科学部門〕
- 6 沼宮内耕作（元友の会長、元県立博物館学芸部長）：蘚類標本の整理、リスト作成、同定、スケッチ作成〔生物部門〕
- 7 岩渕 弘（元県立高等学校校長）：岩手県の蘚苔類〔生物部門〕 ※平成25年2月逝去

○研究協力員（継続）

- 8 工藤鉦一（県文化財保護審議会委員、元県立博物館学芸第二課長）：民俗資料の調査および分類整理〔民俗部門〕
- 9 片山千賀志（元県立学校教諭、県環境影響評価技術審査委員）：岩手県における鱗翅目昆虫を中心とした翅野生動植物の分布および生態に関する研究〔生物部門〕
- 10 玉山光典（盛岡第三高等学校常勤講師・岩手大学教育学部非常勤講師）：変形菌類の標本同定、岩手県の変形菌類相〔生物部門〕
- 11 吉田裕生（前岩手県立博物館学芸第二課長）：東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究〔地質部門〕
- 12 沼宮内明（元県立博物館学芸調査員）：岩手県の植物相〔生物部門〕
- 13 千葉竹勝（前岩手県病害虫防除所長）：昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作製、

調査研究手法に関する助言〔生物部門〕

- 14 長谷川勉（元東北農業試験場虫害第二研究室長）：昆虫標本の整理、とくに鱗翅目昆虫の同定、標本作製、淡水二枚貝の整理、標本作製、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 15 佐竹邦彦（元県立学校校長）：昆虫標本の整理、とくに双翅目昆虫の同定、標本作製、調査の研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 16 竹内基（県立福岡高等学校教諭）：淡水魚類に関する調査、研究の助言・同定等、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 17 川上雄司（盛岡大学非常勤講師）：岩手県立博物館所蔵の中古生代の古生物資料及び標本の整理・調査〔地質部門〕
- 18 鈴木幸彦（元県立博物館主任専門学芸調査員）：藩政期の基礎的研究、蘭学・洋学の地方への浸透・発展、和算浸透・発展の歴史的基礎研究〔歴史部門〕
- 19 後藤友明（岩手県水産技術センター漁業資源部）：岩手県沿岸底魚類の資源評価と管理に関する研究〔生物部門〕
- 20 大友令史（岩手県病害虫防除所）：病害虫の生態的研究〔生物部門〕
- 21 中田功一（北上市立博物館）：通過儀礼・信仰・年中行事・まつりを中心とする無形伝承記録資料の調査と整理、東日本大震災を受けて、無形伝承の衰退と復活の経過の記録と整理〔民俗部門〕
- 22 日下和寿（宮城県白石市教育委員会生涯学習課技術主査）：岩手県の洞穴遺跡の研究 特に沿岸南部の洞穴遺跡について〔考古部門〕

ク. 外部助成

○研究助成 平成 24 年度は、研究助成として 5 件の採択があった。

表(3)－4 平成 24 年度研究助成採択状況

	氏名	部門	研究テーマ名	助成の名称	申請先
1	藤井 千春	生物	アオメエソ属魚類の発光器の機能に関する繁殖生態学的研究	平成 24 年度東京大学大気海洋研究所学際連携研究	東京大学大気海洋研究所
2	鈴木まほろ	生物	岩手県沿岸地域を中心とする植物相の市民調査	平成 24 年度科学系博物館活動等助成	(財) 全国科学博物館振興財団
3	藤井 忠志 藤井 千春 鈴木まほろ	生物	生物部門収蔵資料データベースの公開	自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータ提供	(独) 国立科学博物館
4	代表 赤沼 英男	全部 門	「2011. 3. 11 平成の大津波被害と博物館」シンポジウム	東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド	公益社団法人企業メセナ協議会
5	目時 和哉	民俗	「いわての昭和モノがたり 一戦後復興の軌跡、震災復興への希望」	東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド	公益社団法人企業メセナ協議会

(4) 資料収集保管活動

ア. 資料の収集整理

平成25年3月末現在の登録資料数は24,295点で、開館以降の累計は248,613点に上る(表(4)-1)。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は41件、13,776点である(表(4)-2)。

表(4)-1 平成24年度資料登録状況(資料点数)

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採集	23年度末累計	2,704	18,873	769	3	23	22,372
	24年度計	102	7	0	0	34	143
	累計	2,806	18,880	769	3	57	22,515
発掘	23年度末累計	209	-	3,439	-	-	3,648
	24年度計	0	-	0	-	-	0
	累計	209	-	3,439	-	-	3,648
寄贈	23年度末累計	4,368	87,950	36,363	29,088	14,578	172,347
	24年度計	4	5,968	16,929	276	970	24,147
	累計	4,372	93,918	53,292	29,364	15,548	196,494
購入	23年度末累計	1,391	12,166	267	6,968	2,511	23,303
	24年度計	0	0	0	2	0	2
	累計	1,391	12,166	267	6,970	2,511	23,305
製作	23年度末累計	115	503	94	108	362	1,182
	24年度計	0	0	0	0	3	0
	累計	115	503	94	108	365	1,185
所管換	23年度末累計	1	84	0	1,104	277	1,466
	24年度計	0	0	0	0	0	0
	累計	1	84	0	1,104	277	1,466
合計	23年度末累計	8,788	119,576	40,932	37,271	17,751	224,318
	24年度計	106	5,975	16,929	278	1,007	24,295
	累計	8,894	125,551	57,861	37,549	18,758	248,613

表(4)-2 おもな受贈資料

部門	寄贈者(敬称略)	居住・所在地	資料名	数量
地質	佐々木 篁	盛岡市	タクラマカン砂漠の砂ほか	6
生物	岩井 岸雄	盛岡市	ニホンジカの角	14
	奥 昭夫	二戸市	科学関係書籍	115
	千葉 武勝	盛岡市	岩手県産他昆虫類標本	3,916
	沼宮内 耕作	盛岡市	岩手県産及び沖縄県産他昆虫類標本	2,374
	佐藤 平典	盛岡市	畑正憲著「ムソゴロウ」シリーズほか	106
歴史	家村 秀子	盛岡市	家村氏切手コレクション①	233
	遠藤 啓子	岩手町	短刀	1
	菊池 恵美子	埼玉県	菊池家資料	一式
	金田一 要三	盛岡市	狩野存信筆「朝日之図」	1
	長坂 良三	滝沢村	田鎖鶴立斎筆「山水図」ほか	3
	橋本 康一	花巻市	藤田永湖筆「七福神図」ほか	7
	吉田 重一郎	盛岡市	吉田氏新聞資料	40
民俗	及川 和男	紫波町	型紙	17
	工藤 紘一	盛岡市	ミシンほか	4
	郡司 公平	紫波町	「森口多里」表札ほか	3
	齋藤 俊夫	盛岡市	革バンテンほか	3
	佐藤 武	花巻市	花巻・佐藤家の生活関連資料	一式

登録資料点数は考古部門が最も多く、豊岡遺跡関連資料を主体に全体の3分の2を占める。地質部門ではクモヒトデの化石およびサハラ砂漠の砂(いずれもモロッコ産)2資料、生物部門では昆虫標本をはじめとする5,968点、歴史部門では菊池家資料、家村氏切手コレクションをはじめとする5件655点、民俗部門

では飲食器や着物を主体とする生活用具や染織用型紙など 5 件 971 点である。生物部門では、岩手県民から提供された鳥類および哺乳類剥製標本が製作された（表(4)－3）。

資料の補修（書画表装）、資料整理に関連する用品類（岩石収納用木箱・中性紙保存箱等）の製作購入、機器類の保守点検・修繕は、年次計画に基づき、昨年度とほぼ同程度の規模で実施することができた（表(4)－4・5）。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、平成 23 年度の試行結果をふまえ、当館では資料登録を平成 24 年 4 月から早稲田システム開発株式会社が提供する I.B.Museum SaaS により行うこととした。本システムは、文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハード更新が不要であることなどの利点がある。また東日本大震災でクローズアップされたクラウド型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。平成 25 年 4 月からこのシステムを使用し、岩手県立博物館が所蔵する資料の一部について情報公開を行っている。

表(4)－3 資料の製作

部 門	名 称	内 容 の 概 略
生 物	鳥獸類剥製標本	ヤマゲラ骨格標本、トウホクノウサギ剥製標本を製作した。

表(4)－4 資料の製作補修、用品類の購入

部 門	事 業 名	内 容
地 質	岩石収納用木箱の購入	岩石・鉱物・化石標本の収蔵点数の増加により、これらを収納する収蔵庫専用の標本木箱 21 個を購入した。
歴 史	書画表装	「雅楽観覧の図」外 10 点の表装及び裏打ち等を行った。
歴史民俗 共通	中性紙保存箱等の製作購入	資料の適正保存のため、各種中性紙容器、中性紙畳紙、コンテナボックスを製作または購入した。

表(4)－5 機器類の保守点検と修繕

項 目	部 門	機 器 名 また は 内 容
保守点検	歴 史	マイクロリーダープリンター
	文化財科学	文化財科学実験システム（文化財科学室・器具庫・X線分析室空気清浄化システム）、表面分析装置（X線回折装置・蛍光X線分析装置・走査型電子顕微鏡）、微量化学分析装置（発光分光光度計・ガスクロマトグラフ質量分析装置）、汎用科学分析装置（赤外分光光度計・微小表面拡大装置・示差熱重量同時分析装置）、保存処理機器（大型真空凍結乾燥機・小型真空凍結乾燥機・真空樹脂含浸装置）、博物館資料滅菌システム（文化財滅菌装置・ガス漏れ検知器）
修 繕	文化財科学	滅菌装置分注器交換、示差熱重量同時分析装置真空ホース交換、大型真空凍結乾燥機ロータリーポンプ交換、小型真空凍結乾燥機真空ポンプ・パッキン・真空計交換、マイクロウェーブ分解装置PCインタフェースボード・ファン交換、pH計電極交換、グラインダー駆動部交換、蒸留水製造装置カートリッジ交換、超純水製造装置カートリッジ交換、分析天秤校正
その他	文化財科学	全館くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第1～5収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

(ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出しの要請があり、実物資料については 21 件・182 点、画像（写真）資料については、合計 86 機

関に対して貸出しを行った。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた。今年度は全国的に注目を集めている、被災文化財等レスキューに関する借用が多数あった。

表(4)-6 実物資料の貸出

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	点数
地 質	久慈琥珀博物館	「大地(ジオ)を楽しむ旅へ」解説パネル	20
	一関市芦東山記念館	モシリユウ上腕骨複製	1
	久慈琥珀博物館	翼竜トウブクスアラ ほか	3
	陸前高田市立博物館	モシリユウ上腕骨複製	1
	二戸市歴史民俗資料館	ユダノミミガイ比較種	1
考 古	MIHO MUSEUM	岩手町豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	北海道開拓記念館	盛岡市葦内遺跡出土大型土偶頭部	1
	花巻市総合文化財センター	熊穴洞穴出土土製紡錘車 1 熊穴洞穴出土人骨 1 丹内 I 遺跡 1 号住居跡カラー写真 1 貫頭衣復元品 1	4
	秋田県立博物館	熊穴洞穴出土埋葬人骨 1 葦内遺跡出土大型土偶頭部 1 ハナイズミモリウシ(複製) 1 貝鳥貝塚出土オオカミ下顎骨装飾品(複製) 1 同オオカミ顔面付角棒ほか骨角製品(複製) 4 同カエル形骨角製品(複製) 1 草ヶ沢遺跡出土コノハヅク形土製品(複製) 1 日戸遺跡出土屈折像土偶 1 葦内遺跡出土トーマボール様木製品(複製) 1 上田蝦夷森古墳出土衝角付冑(複製) 1 中尊寺金銅華鬘(複製) 1 柳之御所遺跡出土火舎(複製) 1 柳之御所遺跡出土花瓶(複製) 1 中尊寺石塔(複製) 1 宮野貝塚出土沓椎骨 1 岩谷洞穴出土貝殻象嵌土製品 1 同真珠 1	19
	岩手町教育委員会	豊岡遺跡出土土偶ほか	38
民 俗	八幡平市博物館	花巻人形 8、武者人形 1 対	10
	八幡平市博物館	南部小絵馬(鞍迫観音堂絵馬)	10
	盛岡市先人記念館	雫石地域の野良着 1 式 八重樫リウ・フジ染織「紫根染 座布団」2 及川全三ショール 1 及川全三ネクタイ 4 及川全三写真アルバム 1 第二回民芸展特選賞状 1 クリアーブック(書ほか) 1 及川全三端切れ 8	19
歴 史	盛岡市先人記念館	若松漆絵三重椀 1 花箔絵三重椀 1 鶴丸文椀 1 洗朱椀 1	4
	一関市博物館	紙本著色鍛冶神図	1
	一関市博物館	太刀 銘 助真 1 刀 無名(千手院) 1 短刀 来国俊 1 脇指 国貞 1 刀 大和守安定 1 脇指 手柄山正繁 1 刀 横山祐永 1	7
	仙台市博物館	「陸奥日記」央斎筆	1
	東北歴史博物館	鍛冶屋神	1
	岩手県立図書館	花菖蒲に蝶図鐔 1 岩鷲山透鐔 1 北斗七星図鐔 1 水玉透鐔 1 書 松堂(南部利義) 1 桜花散図鉄瓶 1	6
	八戸市博物館	安政大地震瓦版ほか	2
共通	群馬県立ぐんま昆虫の森	被災文化財等資料の救出・復元作業に関する報道写真	2
合計			143

表(4)-7 画像資料の貸出

部門名	貸出先 (所在地)	資料名	点数
地質	環境省自然環境局国立公園課	マメンキサウルス全身骨格複製	1
	(有)ハユマ	モシリユウ上腕骨複製ほか	2
	制作会社 たまゆら	モシリユウ上腕骨複製ほか	3
	テレビクリエイションジャパン	モシリユウ上腕骨複製ほか	2
	(株)エヌ・アンド・エス企画	モシリユウ発見記念碑の写真ほか	2
	ニュートンプレス	モシリユウ上腕骨複製ほか	1
	国立科学博物館事業推進部	モシリユウ復元図	1
	久慈市	裸子植物ソテツ類など	5
生物	廣瀬理紗 (東京都)	アカマツ果実	1
	(株)及村工藝社経営企画本部	岩手県立博物館内施設	3
考古	(株)平凡社	岩手町豊岡遺跡出土岩偶形土偶	1
	青森県環境生活部	第37回企画展図録「魃状遺構復元想定図」	1
	(株)平凡社	岩手町豊岡遺跡出土土器	3
	(株)新泉社	盛岡市手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	オフィス J・B	萩内遺跡大型土偶頭部	1
	(財)元興寺文化財研究所	萩内遺跡大型土偶	1
	MIHO MUSEUM	岩手町豊岡遺跡出土遮光器土偶ほか	2
	滝沢村埋蔵文化財センター	国指定「中沢浜貝塚」	3
	国際電気通信基礎技術研究所	一関市花泉町寺場遺跡出土土偶ほか	5
	佐藤勝宏 (東北大学大学院)	北上市愛宕下遺跡出土石器	24
	田村長平 (大船渡市)	蕨手刀 (長谷堂貝塚出土)	1
	秋田県立博物館	萩内遺跡大型土偶頭部	1
民俗	バシフィックコンサルタンツ(株)	天明三年田山曆	1
	(有)大悠社	旧佐々木家住宅	1
	北上市立鬼の館	森口多里写真コレクション	3
	盛岡市先人記念館	若松漆絵三重椀ほか	5
	(株)おうふう	釜石市鶴住居常楽寺十王堂供養絵額ほか	4
	NHK 大型企画開発センター	釜石市鶴住居常楽寺奉納絵馬	5
	朝日新聞出版分冊百科編集部	「気仙郡旅日記」(養虫山人・画) 高田町旭之浦之景ほか	2
	ジーグレイブ(株)	旧佐々木家住宅	1
	根子精郎 (紫波町)	鎌田コレクション型紙ほか	89
	千手千賀子 (佐賀市)	森口多里写真コレクション	1
	KSB 瀬戸内海放送	田頭相撲倶楽部絵はがき	1
	国立歴史民俗博物館	嘉永七年盛岡曆	1
	工藤紘一 (盛岡市)	天明三年田山曆	1
	日本経済新聞社東京本社	天明三年田山曆	1
	岩手県農林水産部競馬改革推進室	旧佐々木家住宅 ほか	3
	横浜人形の家	森口多里写真コレクション	1
	幻戯書房	「九相図」(部分・生前相) ほか	3
	一関市商工労働部	うるしかきの様子 ほか	2
	盛岡市先人記念館	及川全三写真アルバム ほか	11
	国立民族学博物館	山田のオシラサマ	1

部門名	貸出先 (所在地)	資料名	点数
歴史	(有)ハユマ	義経蝦夷渡之図	1
	(株)雄山閣	木造兜跋毘沙門天立像 (模型)	1
	(株)集出版社	鍛冶神図ほか	7
	山田町教育委員会	佐々木藍田作「山田浦海岸之図」	1
	(有)笠間書院	歌川国綱画「義経拾九臣之図全」ほか	2
	八幡平市博物館	天台寺蔵「聖観音立像」	1
	(株)東京美術	紙本着色鍛冶神掛図	1
	(株)販促	毛越寺復元模型	1
	(株)ミネルヴェ書房	燕尾形兜	1
	(株)ベストセラーズ	藩校作人館孔子坐像(複製)	1
	(有)リゲル社	燕尾形兜	1
	菊池昭男 (遠野市)	桑島流 (写本)	1
	凸版印刷(株)	天台寺本尊「聖観音立像」正面全身像ほか	3
	テレビ朝日映像(株)	金小札茶糸緘二枚胴具足ほか	2
	NHK 盛岡放送局	建部清庵著「民間備荒録」挿絵	2
	(株)ベストセラーズ	錦絵 義経蝦夷渡之図 (芳虎)	1
	(株)エデルタ	玉川鉄山高殿模型	4
	一関市博物館	三好家甲冑	1
	(株)東北朝日プロダクション	盛岡藩参勤交代図巻	2
	(株)第一学社	干しなまこ (復元) 干し鮑 (復元) フカヒレ (復元)	1
	(有)スタジオ・ジップ	伝蒲生氏郷所用 鯨尾兜	1
	(株)平凡社	黒石寺蔵「薬師如来坐像」(上半身)ほか	21
	岩手古文書研究会	浮田番所制札 (模造)ほか	2
	平和祈念展示資料館	陸軍特別幹部候補生ポスター	1
	東和ふるさと歴史資料館	北上市白山神社所蔵「蔵王権現像」(複製)ほか	2
	(株)TBS ビジョン	百馬毛色図	1
	(株)淡交社	伝蒲生氏郷所用 燕尾形兜	1
	歴史学研究会	三陸大津波惨状之実況	1
	(株)かみゆ	伝蒲生氏郷所用 燕尾形兜	1
	(有)三猿舎	横矧桶側二枚胴具足	1
	(株)NHK エンタープライズ	金沢御山大盛之図	1
	(株)ニューズライン	毛越寺・観自在王院復元模型	1
	(株)テレビマンユニオン	「私残記」上・下ほか	12
(株)NHK 出版	八葉山天台寺「聖観音菩薩立像」	2	
(株)河出書房新社	「後三年合戦絵巻」ほか	4	
東北歴史博物館	岩手県観光鳥瞰図原図	1	
(株)かみゆ	八葉山天台寺「聖観音菩薩立像」	2	
文化財レスキュー	岩手日報社	内耳鉄鍋 (陸前高田市東角地遺跡)	1
	豊橋市自然史博物館	被災した陸前高田市立博物館の外観ほか	2
	北九州市立自然史・歴史博物館	陸前高田市立博物館被災標本他	24
	岩手県立美術館	陸前高田市立博物館の文化財レスキューに関する写真	5
	下関市立考古博物館	被災した大槌町立図書館ほか	19

(イ) 収蔵資料目録の刊行

『岩手県立博物館収蔵資料目録』第25集 生物Ⅶ 岩手の蝶3

(A4判、110頁、500部、平成25年3月27日発行)

主な収蔵資料は、1979年から2000年にかけて、順次地域を限定して丹念に採集・調査した標本群の工藤崇コレクション、1990年代の花泉町（現一関市花泉町）の地域に限定して採集した標本群の小田脊良コレクション、1993年から2010年に採集された新しい標本群の千葉武勝コレクションである。

平成23年3月には岩手の蝶2を先に刊行しており、今回はその続刊としてタテハチョウ科、セセリチョウ科を収録した。また、新たに生態写真を59点と岩手県内の分布図6点を収録した。収録した乾燥標本点数は、5,436点である。

(ウ) 文化財科学部門

岩手県立博物館には先人により今日に伝えられた貴重な文化財、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料が携えている過去の情報および未来へのメッセージを自然科学的方法で解析し読み解くと共に、貴重な学術資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えることを目的として、文化財科学部門が設置されている。

a. 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を設定する必要がある。岩手県立博物館では収蔵庫および展示場に温湿度記録計を設置し、温湿度変化を継続的に観察している。その結果をふまえ空調機をコントロールして、展示場および収蔵庫内の温度を18～23℃、湿度を55～65%に維持することに努めている。

特に精度の高い湿度管理を行う必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースを使い展示している。出土金属器および木器については、脱酸素剤および調湿剤を入れた透湿抵抗の高いフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。平成19年度から空調機の稼働方法を見直し、省エネと二酸化炭素排出の抑制にも取り組んでいる。

b. 生物学的劣化からの防除

有機化学物質を素材とする資料は、虫や黴により食害される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫や黴が付着している可能性があり、そのままの状態では収蔵庫や展示場に運び込まれた場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫や黴から資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料については必ず滅菌機でくん蒸している。平成24年度の滅菌機によるくん蒸実施状況は表(4)―8に示すとおりである。

表(4)―8 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部 門	資 料 種 別	数 量	単 位
地 質	骨格標本等	3	件
生 物	昆虫標本	98	箱
	植物標本	9	箱
	書籍	5	箱
	その他	3	件
考 古	出土遺物等	2	件
歴 史	書籍等（被災資料含む）	114	箱
民 俗	生活用具等	25	件
	漁撈用具等（被災資料）	20	箱
	テーマ展資料	40	箱

平成24年9月1日から10日まで密閉くん蒸法により、第一から第三収蔵庫、歴史・古美術整理室、および第二書庫をくん蒸した。平成24年7月および平成24年11月には、館内の害虫生息状況について実態調査を実施した。さらに全館くん蒸実施後、有害な虫や黴の発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚に固着する塵埃の除去を行った。

平成25年度についても、有害な虫や黴の発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

c. 資料の科学分析・保存処理

資料を現状のまま長く保存するためには、資料の内部構造、製作に使用された素材を正確に把握する必要がある。そこで岩手県立博物館では、EPMA(電子線・プローブ・マイクロアナライザー)、蛍光X線分析装置をはじめとする表面分析装置、高周波誘導結合プラズマ発光分光光度計、およびガスクロマトグラフなどの微量分析機器を駆使し、文化財を自然科学的方法で調査している。劣化の進行が著しく、形状保全が難しいと判断された資料については、保存処理を行い、形状保持を図っている。平成24年度の岩手県立博物館関係資料の分析・保存処理実施状況は表(4)―9のとおりである。

表(4)―9 館関係資料の分析・保存処理実施状況

分析・処理内容	点数
漆資料の自然科学的調査	23
紙資料の自然科学的調査	15
土器資料の自然化学的調査	8
出土銅製品の修復・自然科学的調査	63
出土鉄器の自然科学的調査・保存処理	273
ガラス資料の自然科学的調査	2
出土木製品の保存処理	3

文化財を科学分析するにあたり、機器の安全で円滑な使用を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則等の法令に定められている機器保守点検、作業環境測定、および使用済薬品の無害化処理の委託(表(4)―10)を実施した。これらの科学分析によって得られた情報は、資料の保存方法、保存環境の設定に生かされている。

表(4)―10 委託事業

委託事業名	数量	単位
全館くん蒸消毒(6,994m ³)	5	箇所
文化財科学機器保守点検	6	件
文化財科学作業環境測定	1	件
使用済薬品等廃棄処分	1	件
X線構造解析	1	件
出土炉壁組成分析	1	件

(5) 総務企画調整

ア. 総括出版広報

(ア) 印刷物

a. 博物館だより No. 133~136 (A4判、8頁、各3,200部)

133号: 目次/大型土偶頭部(盛岡市葦内遺跡出土)重要文化財、文化庁蔵 表紙/館長あいさつ「着任にあたって」 p.2 /事業報告「平成23年度第2回伝統芸能鑑賞会～春を招く若人の舞～」 「チャレンジ!はくぶつかん 14名の最優秀チャレンジャー誕生!!」 p.3 /展覧会案内 第63回企画展『土偶まんだら』 p.4-5 /活動レポート「東日本大震災による被災文化財等救援状況—平成23年度の活動を通して—」, お知らせ「平成24年度の人事異動」 p.7 /インフォメーション p.8

134号: 目次/震災復興・科博コラボミュージアム「恐竜アロサウルスがやってきた」, テーマ展「砂～砂粒から大地をさぐる～」 表紙/いわて文化ノート「岩手県域で出土する鎌倉時代の東北地方産陶器」 p.2-3 /展覧会案内 テーマ展「砂～砂粒から大地をさぐる～」 p.4-5 /展覧会案内 震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム「恐竜アロサウルスがやってきた」, 事業報告「第63回地質観察会 二戸市白鳥川の門ノ沢動物群～亜熱帯・熱帯の貝化石～」 p.6 /事業報告「国際博物館の日記念県博バックヤードツアー」 「伝統芸能鑑賞会『鶴鳥神楽』」 p.7 /インフォメーション p.8

135号: 目次/被災した陸前高田市立博物館および図書館と修復された資料の状況 表紙/いわて文化ノート「絵師川口月嶺のこと」 p.2-3 /展覧会案内 テーマ展「2011.3.11 平成の大津波被害と博物館—被災資料の再生をめざして—」 p.4-5 /事業報告「平成24年度夏休み子ども招待事業 夏休み!たんけん博物館」 「第4回岩手県立博物館まつり わくわくたいけん はくぶつかん」 p.6 /事業報告「第63回自然観察会 鍾乳洞を探検しよう!」 「第64回地質観察会 川砂から鉱物をさがす」 p.7 /インフォメーション p.8

136号: 目次/秋篠宮同妃両殿下の御視察 表紙/いわて文化ノート「世界遺産「平泉」回顧と展望」 p.2-3 /展覧会案内 テーマ展「いわての昭和モノがたり—戦後復興の軌跡、震災復興への希望—」 p.4-5 /事業報告「平成24年度岩手県立博物館移動展 いわての宝をみよう～自然・文化・軽米の遺跡～」 「冬休みたいけん教室」 p.6 /活動レポート「秋篠宮同妃両殿下の御視察」, 解説員室より「児童書が入りました!」 p.7 /インフォメーション p.8

b. 平成24年度岩手県立博物館年報

(A4判、55頁、1100部、平成24年7月13日発行)

c. 行事案内リーフレット

平成24年度下半期分 (B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成24年8月発行)

平成25年度上半期分 (B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成25年3月発行)

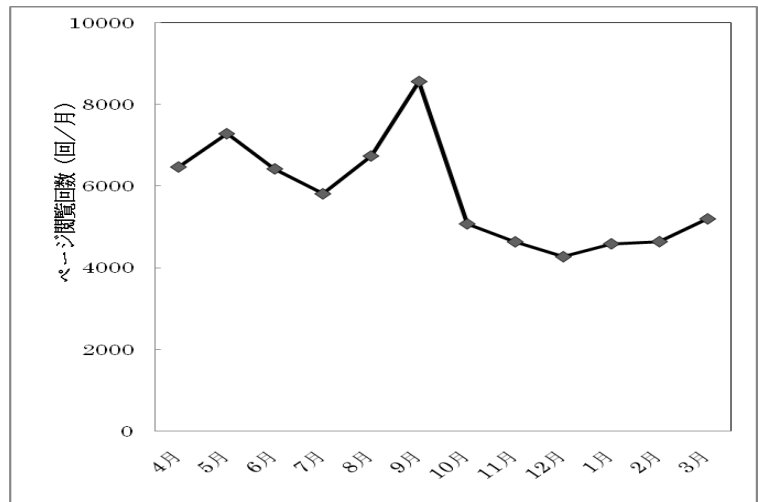
(イ) 広報活動

- 当館独自の広報 ①イベントガイド(毎月、市内公共施設および松園地区配布、約1,600部)、⑥新聞広告(岩手日報、岩手日報ぼらん)、その他各事業別ちらし(随時) 等。
- その他の公所 ①教育記者クラブ、②日博協、③全科協、④県生涯学習推進センターHP「まなびネット」、⑤県観光協会、⑥盛岡観光コンベンション協会 等。
- 新聞各社への情報 胆江日日新聞、デーリー東北、東海新報、盛岡タイムス 等。
- ミニコミ誌等 acute、Amuse、vivitto、マ・シェリ、游悠、rakra 等。

(ウ) 博物館公式ホームページの運営

岩手県立博物館公式ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成 13 年 3 月 1 日に正式公開された。平成 24 年度は、年度末に委託製作による改訂を行った。特に、Twitter による広報を継続すると共に、オススメ動画・デジタルアーカイブのリンクなどトップページの充実を図った。平成 24 年度のトップページの閲覧回数は 1 日平均 199.2 回である。閲覧回数は、東日本大震災の影響が 7 月まで見られたが、震災により更新できなかった利用率の高い企画展案内ページが、再開されると、テーマ



展終了の 3 月まで昨年度のように大きく減少することはなかった。今後は、委託製作した管理システムによるより早いお知らせの更新と改訂したホームページの階層ごとの充実を継続的に図っていく必要がある。

イ. 情報機器の管理

平成 24 年度は、デジタル画像保管用ハードディスクを 2 台購入した。

ウ. 委員会等職員派遣

外部団体の委員を委嘱されている職員が、依頼を受けて会議等に参加したものの一覧である。

表(5) - 1 平成 24 年度外部団体等への委員の派遣一覧

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
1	5・15	釜石市教育委員会	平成 24 年度第一回釜石市橋野高炉跡史跡整備委員会	国指定史跡・橋野高炉跡の整備について	赤沼英男
2	5・16	岩手県環境生活部自然保護課	平成 24 年度 いわてレッドデータブック改訂検討委員会	第 1 回専門部会	鈴木まほろ
3	5・21	東京大学大気海洋研究所	東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター	平成 24 年度第 1 回エゾイソアイナメ調査	藤井千春
4	5・24	八幡平市博物館	八幡平市博物館協議会	第 1 回八幡平市博物館協議会	阿部勝則
5	5・26	日本洞穴学研究所	日本洞穴学研究所事務局	平成 24 年度日本洞穴学研究所総会及び第 1 回龍泉洞・大穴調査	藤井千春
6	6・5	岩手県教育委員会生涯学習文化課	平成 24 年度教育振興運動推進研修会	岩手紫波教育事務所館内平成 24 年度教育振興運動推進研修会取り組み状況	赤沼英男
7	6・8	こどもひかりプロジェクト	こどもひかりプロジェクト事務局	こどもひかりフォーラム報告	藤井千春
8	6・11	田野畑村	なし	被災遺構およびジオサイト等調査	大石雅之
9	6・12	いわて三陸ジオパーク推進協議会	第 1 回学術専門部会	平成 24 年度の事業計画、テーマ・サブテーマなど	大石雅之
10	6・17	岩手県教育委員会	平泉遺跡群出土文字資料検討会	第 5 回平泉遺跡群出土文字資料検討会	阿部勝則
11	6・19	東京大学大気海洋研究所	東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター	平成 24 年度第 2 回エゾイソアイナメ調査	藤井千春
12	6・25	金ヶ崎町教育委員会	金ヶ崎町文化財調査委員会	第 1 回金ヶ崎町文化財調査委員会会議	阿部勝則
13	7・6	文化庁文化政策部会	文化庁文化審議会・文化政策部会ヒアリング出席	被災文化財等レスキュー活動の取り組み状況	赤沼英男
14	7・8	二戸市	折爪岳振興協議会	地域の宝ひめほたるフェスティバル in 折爪岳打合せ	藤井千春
15	7・11	二戸市	折爪岳振興協議会	地域の宝ひめほたるフェスティバル in 折爪岳設営	藤井千春
16	7・14	二戸市	折爪岳振興協議会	地域の宝ひめほたるフェスティバル in 折爪岳運営	藤井千春

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
17	7・20	岩手県教育委員会生涯学習部文化課	平成 24 年度教育振興運動第 1 回推進幹事会出席	平成 24 年度教育振興運動取り組みについて	赤沼英男
18	7・29	日本洞穴学研究所	日本洞穴学研究所事務局	岩泉町「龍泉洞の謎を探ろう」夏休み洞窟ガイド	藤井千春
19	8・4	日本地学教育学会	「平成 24 年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第 66 回全国大会・岩手大会」実行委員会	「平成 24 年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第 66 回全国大会・岩手大会」	大石雅之
20	8・5 8・6	日本地学教育学会	「平成 24 年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第 66 回全国大会・岩手大会」実行委員会	釜石市・大船渡市・陸前高田市・住田町の各地の巡検	大石雅之
21	8・28	いわて三陸ジオパーク推進協議会	第 2 回学術専門部会	いわて三陸ジオパークのテーマとジオサイトの候補についてほか	大石雅之
22	9・18	東京大学大気海洋研究所	東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター	平成 24 年度第 3 回エゾイソアイナメ調査	藤井千春
23	10・12	日本応用地質学会東北支部	現地研修会	盛岡～田野畑～宮古方面の地質	大石雅之
24	10・19	岩手県高等学校教育研究会理科部会生物部会	高教研理科部会生物部会実験書編集委員会	平成 24 年度高教研理科部会生物部会第 1 回実験書編集委員会	藤井千春
25	10・20	岩手県教育委員会	「平泉の文化遺産」世界遺産追加登録に係る国内専門家会議	浄土世界の範囲や広がりやのなかに農村域が含まれるか。	阿部勝則
26	10・30	東京大学大気海洋研究所	東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会	「底魚の生物学。現状、課題、そして将来展望」コンペーパー	藤井千春
27	11・11	岩手県教育委員会	平泉遺跡群出土文字検討会中間報告会	比爪館跡出土文字資料について	阿部勝則
28	11・13	東京大学大気海洋研究所	東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター	平成 24 年度第 4 回エゾイソアイナメ調査	藤井千春
29	11・16	岩手県高等学校教育研究会理科部会生物部会	高教研理科部会生物部会実験書編集委員会	平成 24 年度高教研理科部会生物部会第 2 回実験書編集委員会	藤井千春
30	11・16	千葉県博物館協会	「ミュージアム活性化事業：博物館資料を次世代に引き継ぐシステム構築」	陸前高田市立博物館（旧生出小）視察案内	大石雅之
31	11・17	日本洞穴学研究所	日本洞穴学研究所事務局	平成 24 年度第 2 回龍泉洞調査	藤井千春
32	11・28	株式会社エス・エイ・アイ	平成 24 年度野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査（早池峰山周辺地域）に係る検討委員会	第 1 回委員会	鈴木まほろ
33	12・6	岩手県高等学校教育研究会理科部会生物部会	岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部	第 59 回岩手県高等学校理科研究発表会並びに第 35 回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門発表会に係る打ち合せ及び事前審査会	藤井千春
34	12・7	岩手県環境生活部自然保護課	平成 24 年度 いわてレッドデータブック改訂検討委員会	第 2 回専門部会	鈴木まほろ
35	12・11	岩手県高等学校教育研究会理科部会生物部会	岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部	第 59 回岩手県高等学校理科研究発表会並びに第 35 回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門発表会に係る打ち合せ及び審査会	藤井千春
36	12・14	文化庁主催第 2 回マネージメント研修会	文化庁美術学芸課	岩手県立博物館における危機管理について	赤沼英男
37	1・18	平成 24 年度教育振興運動集約県大会	岩手県生涯学習文化課	平成 24 年度教育振興運動集約県大会集積	赤沼英男
38	1・22	被災文化財等救援委員会主催文化財レスキュー公開討論会	被災文化財等救援委員会	被災文化財等救援委員会主催 文化財レスキュー公開討論会	赤沼英男
39	2・1	株式会社エス・エイ・アイ	平成 24 年度野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査（早池峰山周辺地域）に係る検討委員会	第 2 回委員会	鈴木まほろ
40	2・14	国土交通省	四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議	四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議総会	斎藤邦雄
41	3・14	岩手県環境生活部自然保護課	平成 24 年度 いわてレッドデータブック改訂検討委員会	平成 24 年度 いわてレッドデータブック改訂検討委員会	鈴木まほろ
42	3・16	大学等における地域復興のためセンター的機能整備事業シンポジウム	いわて高等教育コンソーシアム	文化財・資料の保存と救済のための連携についての発表	赤沼英男
43	3・19	岩手県高等学校教育研究会地歴・公民部会日本史部会	岩手県高等学校教育研究会地歴・公民部会日本史部会の新副読本編集委員会	岩手県高等学校教育研究会地歴・公民部会日本史部会の新副読本編集委員会	笠原雅史
44	3・27	盛岡市子ども科学館	盛岡市子ども科学館協議会	平成 24 年度第 2 回盛岡市子ども科学館協議会	藤井忠志

6. 文化財レスキュー活動

1. はじめに

東日本大震災の発生からはや2年が経過した。わが国観測史上最大の自然災害発生を受け岩手県立博物館では、平成23年4月2日以降今日まで、岩手県太平洋岸に設置された被災博物館およびその関連施設に保管されている貴重な文化財および自然史標本の救出と再生を図るため、岩手県教育委員会と連携し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会(以下、被災文化財等救援委員会)をはじめとする様々な機関並びに個人の支援を得ながら、救援活動を行ってきた。ここでは平成24年度の活動状況を報告し、併せて平成25年度以降の課題について述べる。

2. 大津波による博物館関連施設の被災状況

巨大地震、その後に襲来した大津波は、東日本の太平洋沿岸地域に立地する多くの博物館をはじめとする文化施設に対し壊滅的被害をもたらした。岩手県沿岸部でも複数の博物館、資料館、水族館、および図書館が津波でほぼ完全に水没し、現在もその多くが所在地における震災以前の機能回復を果たせずにいる。展示施設とは離れた場所に設置された収蔵庫、および収蔵庫に保管されていた資料が被災した例もある。さらに岩手県内の市町村教育委員会が所管していた埋蔵文化財、法人および個人などが所有していた文化財、市役所等で保管されていた絵画等を加えると、岩手県に限っても被災した文化財、自然史標本等は50万点以

表1 岩手県内における主な博物館等の被災状況(個人・法人蔵関係資料を除く)(平成24年9月20日現在)

区分	施設・機関名	主な被災資料の内容	流失を免れた被災資料点数
施設・設備・資料が甚大な被害を受けた博物館等	陸前高田市立博物館	考古資料、歴史資料、民俗資料、民族資料、剥製・骨格標本、動物遺存体資料、液浸標本、昆虫標本、植物標本、地質標本、絵画関係資料、写真資料、収蔵資料データベース	約200,000点
	陸前高田市立図書館	吉田家文書及び関連資料、近・現代行政文書、一般図書、郷土図書	約4,000点
	陸前高田市海と貝のミュージアム	貝類標本、ツチクジラ剥製標本、鳥羽源蔵関係文献資料、写真資料、収蔵資料データベース	約110,000点
	大船渡市立三陸公民館図書室	一般図書、郷土図書	(全て流失)
	釜石市戦災資料館	戦災資料	12点
	大槌町立図書館	行政文書、一般図書、郷土図書	約700点
	山田町立鯨と海の科学館	民俗資料、液浸標本、マッコウクジラ骨格標本	約3,200点
	野田村立図書館	一般図書、郷土図書	約300点
別館収蔵施設が被災した博物館等	久慈地下水族科学館	魚類	8種20匹
	大船渡市立博物館	考古資料、歴史資料、民俗資料	455点
所蔵・所管する文化財等が被災した公共施設等(博物館等を除く)	釜石市郷土資料館	民俗資料	212点
	陸前高田市役所	行政文書	約12,000冊
	陸前高田市教育委員会埋蔵文化財整理室	考古資料	コンテナ約1,200箱
	岩手県立高田高等学校	絵画・書	13点
	陸前高田市立広田中学校	絵画	4点
	大船渡市教育委員会	絵画	15点
	釜石市教育委員会	尾崎神社関係文書	約600点
	大槌町役場	行政文書	約500点
	大槌町教育委員会	考古資料、古文書	考古資料 コンテナ約300箱 古文書 約3,100点
	山田市役所	行政文書	約3,000点
山田町教育委員会	民俗資料、書簡類、海藻押し葉標本	約10,000点	
宮古市役所	絵画	1点	

*平成24年日本博物館協会東北支部フォーラム、日時和哉発表資料(平成24年9月20日、岩手県盛岡市)

上に上るものと推定される。巨大地震および大津波による岩手県太平洋岸所在博物館および関係施設の主な被災状況は、表 1 に示すとおりである。

3. 平成24年度の活動状況

3-1 被災資料の安定化処理

平成 24 年度も平成 23 年度に引き続き、6 市町 16 機関が所管する被災文化財および自然史標本の安定化処理（資料をそのままの状態でも長期にわたり安定的に保管できる状態にすること）を行った。

紙を素材とする資料(古文書、絵図、軸類、議会関係文書、教科書、および書簡類など)、大工道具、漁撈用具をはじめとする水洗可能で有機質を素材とする文化財については次亜塩素酸ナトリウム水溶液(400～800ppm)に浸漬し除菌・脱臭した後、水道水で洗浄、精製水で脱塩処理した。紙を素材とする資料および金属器については真空凍結乾燥処理を、木製品については通気のいい場所で自然乾燥した。

被災植物標本については台紙から標本を取り外し、水道水で洗浄、熱風乾燥機で乾燥後、ラベルとともに新聞紙に挟み保管した。昆虫標本については、精製水、エタノール、過酸化水素水、および界面活性剤の混合溶液に浸漬し、除菌、除泥、および脱塩処理を施した後、展足板に固定し形状を整えながら乾燥し、標本箱に収納した。

7 月および 8 月の 2 回に分けて安定化処理および整理が終わった陸前高田市立図書館所管近代行政文書(陸前高田市域内旧町村のもの)2,223 点を岩手県立図書館に搬送し、5 ケ年間保管を依頼した。8 月には被災した陸前高田市立博物館が所蔵していた液浸標本 200 本が新たに岩手県立博物館に運び込まれ、標本液の交換と新しい容器への入れ替えが行われた。岩手県立博物館が平成 24 年度に実施した被災資料の安定化処理点数は、表 2 に示すとおりである。

表 2 平成 24 年度岩手県立博物館被災文化財等安定化処理実施状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

部門	点数	主な資料
歴史関係資料	4,565	岩手県指定文化財・吉田家文書・絵図、陸前高田市議会関係資料等
民俗関係資料	535	大工道具および漁撈用具等
生物関係資料	11,664	昆虫・液浸標本
	25,785	貝類標本、押し葉・地衣類・蘚苔類標本、海藻液浸標本、海藻押し葉標本
合計	42,549	

4 万点に上る資料の安定化処理を実施するためには、多くの人手が必要である。平成 24 年度も平成 24 年 5 月から平成 25 年 3 月まで緊急雇用職員 8 名を任用し、古文書をはじめとする紙を素材とする資料、民具資料、および生物標本の安定化処理および安定化処理終了資料の整理・分類作業を進めた。緊急雇用職員が任用期間中に取り扱った被災資料点数を表 3 に示す。

平成 24 年度も昨年度同様、全国の様々な機関および個人の方々から数多くの暖かい支援を受けた。特定非営利活動法人 文化財保存支援機構が主催し、独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館、陸前高田市教育委員会、陸前高田市立博物館、岩手県立博物館が共催した『文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベルⅡ』における研修の一環として、8 月 6 日、岩手県立博物館において古文書の真空凍結乾燥処理、民具・歴史資料、生物標本の安定化処理状況の見学と処理方法に関する講義が行われた。

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 平成 24 年度プロジェクトの一環として、11 月 1 日にはアルゼンチン共和国の研究者 5 名が岩手県立博物館を訪問し、被災生物標本の安定化処理状況を視察した。11 月 5 日および 6 日の両日、エジプトの大エジプト博物館保存修復センター微生物研究室のスタッフ 3 人が、独立行政法人東京文化財研究所文化遺産国際協力センターの川口雄嗣特別研究員、NPO 法人カビ相談センターの高鳥浩介理事長らと県立博物館を訪れ、古文書の洗浄やかび除去方法などを実習した。

表3 緊急雇用職員による月別作業集計（平成24年5月15日～平成25年3月31日）

	生物									歴史						民俗			月別 小計
	昆虫標本			植物標本			貝類・海藻標本			古文書			古記録			古民具			
	洗浄等	復元	保存	洗浄等	復元	保存	洗浄等	復元	保存	洗浄等	復元	保存	洗浄等	復元	保存	洗浄等	復元	保存	
5月	69	0	1,245	82	166	0	71	83	1,584	0	75.5	0	0	0	0	219	23	176	3,794
6月	0	0	3,156	143	191	0	349	248	3,950	433	127.5	437	0	0	381	387	0	1077	10,880
7月	0	0	3,377	615	819	138	103	87	5,327	511	68	122	0	0	141	393	0	2,039	13,740
8月	20	0	2,292	398	254	141	7	30	5,820	132	139	11	175	0	331	293	6	529	10,578
9月	0	0	1,268	255	200	46	0	0	540	5	31	0	49	0	0	47	0	664	3,104
10月	15	20	1,726	376	288	0	0	0	1,188	129	235	0	65	63	124	274	0	2,353	6,855
11月	0	2	130	220	166	929	54	46	272	116	270	0	61	2	203	372	0	264	3,107
12月	15	20	1,102	216	227	2,062	0	0	110	138	73	0	0	12	239	765	140	18	5,137
1月	0	4	1,211	84	107	2,402	169	110	0	273	45	0	0	43	45	862	117	87	5,559
2月	3	68	3,864	29	18	2,349	285	216	221	72	1	0	227	47	4	576	0	251	8,231
3月	23	42	374	30	34	838	162	15	1,470	89	13	600	173	47	10	187	10	445	4,562
部門別 作業別計	145	156	19,745	2,448	2,470	8,905	1,200	835	20,487	1,898	1,076	1,170	750	214	1,478	4,375	296	7,713	
部門合計	56,386									4,144			2,442			12,574			75,545

※部門の合計点数は取り扱った資料点数であり、安定化処理完了点数とは異なる

3-2 被災地における支援

岩手県立博物館で行っている被災資料の安定化処理方法はマニュアル化され、岩手県沿岸部の被災機関でもそれを使い同様の処理が実施され始めている。被災機関での安定化処理をより確実なものとするため、5月および6月には大船渡市民族資料保管庫に保管されていた民具資料の被災状況を確認し、黒カビが発生した民具資料の除菌・脱塩方法に関する技術指導を行った。6月には独立行政法人文化財機構・東京文化財研究所が釜石市郷土資料館別館収蔵庫、仮設陸前高田市立博物館(旧陸前高田市立生出小学校)内におけるカビの生息状況に関する調査を行い、健康被害をもたらすスタキボトリス属菌の発生が確認された。この測定結果を受け、岩手県立博物館における安定化処理で使用する保護具の見直しと作業過程での粉塵発生防止(ドライクリーニングの見合わせ)に努め、安全管理の徹底を図った。

岩石・鉱物および化石をはじめとする地質標本については、5～7月には岩手県立博物館と東北大学総合学術博物館により平成23年度安定化処理が完了した資料の大部分作業が行われた。7月からは日本古生物学会および東京地学協会の支援を得て、当該資料の専門的同行作業が進められている。

平成23年度に回収されビニールハウスに保管された岩手県指定文化財吉田家住宅部材の洗浄、写真撮影作業、および一部部材の特定作業が、八戸工業大学月館研究室及び今泉復興の会と共同で、ボランティアの支援を受けながら6月～11月まで、断続的に実施された。今後は回収された部材の特定作業と並行し樹種同行などが行われる予定である。平成24年度に岩手県立博物館が行った活動の概要は図1に示すとおりである。

4. 秋篠宮同妃両殿下のご来館

秋篠宮同妃両殿下が12月20日、岩手県立博物館をご来館になり、博物館における被災文化財および自然史標本の修復状況をご視察された。両殿下は陸前高田市立図書館および同市立博物館から救出され、冷凍保管されている古文書をご覧になり、それらの除泥、脱塩、真空凍結乾燥処理作業、漁撈用具の洗浄・脱塩作業をご見学された。その後、乾燥処理が終わった古文書の点検、応急修復、デジタル画像撮影、近世の襖の裏貼りに使用された古文書のはぎ取り作業、近世絵図の洗浄作業、被災した植物標本と昆虫標本の処理作業、および処置が完了した様々な標本をご覧になられた。秋篠宮殿下自ら顕微鏡を操作し、昆虫表面に析出した塩分を観察された。一連の安定化処理状況のご視察に際し、作業に従事している職員やボラボランティア一人一人にお声をかけていただいた。

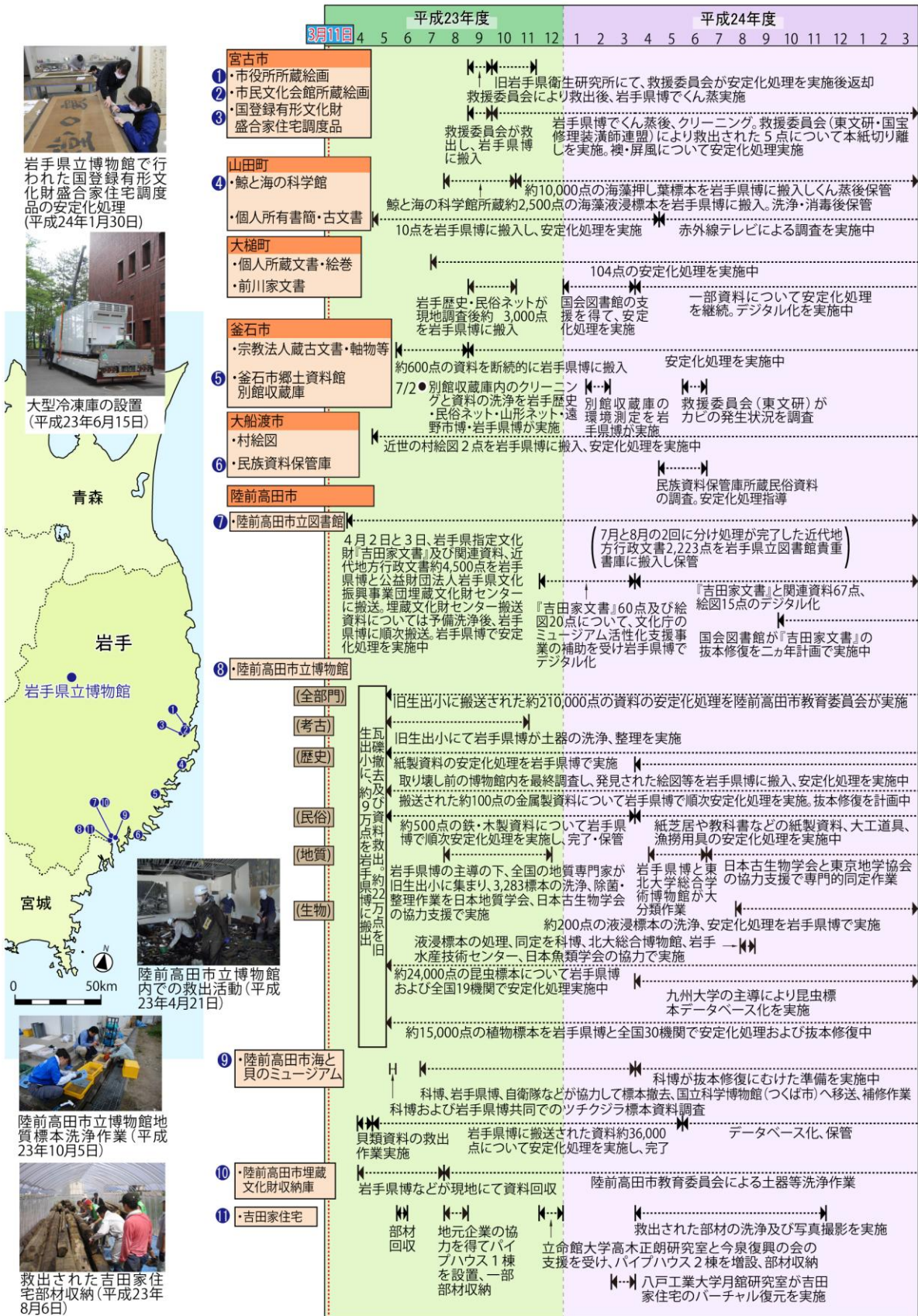


図1 岩手県立博物館が実施した岩手県沿岸部に所在する被災博物館および関連施設の救援活動状況(平成25年3月末現在)

機関名略称

東北太平洋沖地震被災文化財等救援委員会=救援委員会、北海道大学総合学術博物館=北大総合学術博物館、
 国立国会図書館=国会図書館、国立科学博物館=科博、岩手県立博物館=岩手県博、旧陸前高田市生生出小学校=旧生出小

安定化処理作業をご覧になられた後、2階特別展示室で平成25年1月5日から一般公開されるテーマ展の準備状況をご視察され、巨大地震とその後の大津波が沿岸の博物館関連施設と展示・収蔵資料にもたらした被害の実態、救出され様々な措置が施された資料の現状や今後の課題について、時折色材料の素材や処理の具体的方法など専門的なご質問を交えながらご見学された。

ご視察終了後、秋篠宮殿下から今後も博物館職員一丸となり被災資料の再生を果たすよう励ましのお言葉をいただいた。このお言葉を胸に職員一同被災資料、そして博物館機能の再生を目指し、今後の活動を一層充実させるべく決意を新たにしたところである。

5. 博物館機能の再生をめざして

被災文化財および自然史標本再生の意義として、①地域に伝わる貴重な自然遺産および文化遺産の保存と継承、②地域における文化活動（博物館機能等）の再生、③地域が日本の歴史、そして世界の歴史の中で果たしてきた役割の再検討(再確認)を挙げることができる。

幸い被災地では一連の活動が地域住民に理解され、順調に作業が進んでいるが、これから処理を施さなければならない資料の中には水洗が困難なもの、使用痕を残さなければならないものなど、技術的困難を伴うものが相当数含まれている。これまでの方法では対処が難しく、新たな措置方法を構築する必要がある。これまで被災資料救援の中心的役割を担ってきた被災文化財等救援委員会の解散に伴い、以後の活動は各被災機関に委ねられることになる。各被災機関では平成24年10月から文化庁の被災ミュージアム再興事業を活用し、安定化処理が済んだ資料の抜本修復、被災資料のデータベース化に取り組みは始めている。被災文化財および自然史標本を修復するうえで必要な設備・機器類を備えた県内唯一の機関であるという実状をふまえ、岩手県立博物館では被災機関、被災文化財等救援委員会構成機関、被災文化財および自然史標本の再生に支援されてきた様々な領域の研究者とこれまで以上に緊密な連携を図りつつ、被災資料の再生、喪失した博物館機能の再生に取り組んでいきたいと考える。これまで同様、暖かいご支援、ご指導をお願いしたい。

7. 岩手県立博物館友の会

(1) 概要

本年度は、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。現地見学会の「考古学セミナー」も大盛況であった。「鎖国から開国へ」は参加者催行定員に達せず、当初実施がややぶまれたが事務局の努力で実施することができた。少人数での旅で、より深い親睦が図られ実り多い旅程となった。また、被災文化財等レスキュー活動に7人の会員の方がボランティアとして従事している。近年、高齢化が進み会員数は減少傾向にあり、それにともない財政的に苦しい状況が続いているが、友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

(2) 会員数

	平成24年度		平成23年度	
	人	件	人	件
一般会員	221	221	236	236
家族会員	348	126	408	132
小中高会員	0	0	0	0
終身会員	27	27	23	23
賛助会員	27	16	25	13
計	623	390	692	404

(3) 主催事業

ア. 現地見学会

(ア) 第1回「考古学セミナー」(県博と共催) 北上市花巻市方面 8月11日(土) 参加者28人
スタッフ(岩手県立博物館) 齊藤邦雄氏 羽柴直人氏 八木勝枝氏 石川依子氏 三河綾乃氏

(イ) 第2回「鎖国から開国へ」熊本県 鹿児島県 11月5日(月)～11月8日(木) 参加人数11人

イ. 野外観察会

(ア) 第1回「自然観察会」(県博と共催) 9月23日(日) 参加者38人 岩泉町龍泉洞及びその水源地帯 講師 日本洞穴学研究所理事 柳沢忠昭氏 日本洞穴学研究所研究員 菊池敏雄氏

(イ) 第2回「地質観察会」(県博と共催) 二戸市方面 7月8日(日) 参加者20人
講師 二戸市文化財調査委員 小守一男氏

(ウ) 第3回「自然観察会」(県博と共催) 盛岡市毛無森国有林砂子沢森林環境フィールド
10月21日(日) 参加者25人 講師 岩手の植物を語る集い 事務局長 畠山茂雄氏

(エ) 第4回「地質観察会」(県博と共催) 一関市花泉方面 10月7日(日) 参加者23人
講師 日本地学研学会会員 北峰瑞也氏

ウ. 話のサロン(講演会)

(ア) 第1回「いわてのスマレ」(「集い」と兼ねる) 博物館教室 5月12日(土) 参加者29人
講師 岩手県立博物館友の会 片山千賀志氏

(イ) 第2回「初代八戸藩主夫人霊松院の実家川口家の変遷」(県博と共催) 博物館講堂
8月26日(日) 参加者144人 講師 県博主任専門学芸員 佐々木勝宏氏

(ウ) 第3回「古代蝦夷と城柵との関わり-その1」 博物館教室 11月18日(日) 参加者30人
講師 盛岡市西部公民館主査 八木光則氏

(エ) 第4回「平成の大津波で被災した文化財の再生」博物館教室 1月27日(日) 参加者27人
講師 県博第二課長 赤沼英男氏

エ. 「集い」(総会)「第1回話のサロン」と兼ねる 博物館教室 5月12日(土)

オ. 会報発行等

(ア) 「友の会会報」発行(A4版8頁、500部) 4回(No.88～91)発行(4,7,10,1の各月)
※No.91のみA4版10頁

(イ) 「友の会通信」発行(A4版両面刷り2頁、500部) 4回(No.93～96)発行(6,9,12,3の各月)

(ウ) 「博物館だより」発送 年4回発送(No.133～136)(6,9,12,3の各月)

(エ) 「博物館行事案内」発送 年2回(4,9各月)

(オ) 県博の行事等の案内、要項を年9回開催の友の会企画委員会で随時発送。

(カ) ボランティア活動 「被災文化財等レスキュー」被災標本・古文書などのレスキュー ボランティア募集したところ会員7名が、現在被災標本のカビ等を洗浄・除去、乾燥・整理などの活動に従事している。

カ. 博物館事業への協力

現地見学会や県博日曜講座の一部を博物館と共催とし、友の会主催の現地見学会には学芸員を講師に迎えてご指導を得た。ボランティア活動でも十分な成果をあげることができた。

8. 博物館入館者利用状況

開館以来の入館者数（総利用人数）

年度	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,287	836	14,858	40,981	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
総計	1,697,441	190,847	762,592	2,650,880	9,687	274
平均	51,438	5,783	23,109	80,330	294	283

平成24年度月別入館者数

区分 月	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
4	1,109	116	471	1,696	26	65
5	1,590	187	1,161	2,938	26	113
6	1,663	99	1,560	3,322	26	128
7	2,602	44	1,632	4,278	26	165
8	2,848	110	1,270	4,228	29	146
9	1,485	156	1,536	3,177	18	177
10	2,711	27	3,308	6,046	26	233
11	1,854	42	1,206	3,102	26	119
12	990	65	684	1,739	24	72
1	1,179	56	1,039	2,274	24	95
2	1,341	42	482	1,865	24	78
3	1,697	83	960	2,740	27	101
計	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124

開館以来の入館者数（利用区分別）

区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
昭55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,317	511	6,928	21,756	1,822	71	320	2,213	9,148	254	7,610	17,012
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
総計	993,567	52,155	259,771	1,305,493	434,195	15,014	37,568	486,777	269,679	123,678	465,253	858,610
平均	30,108	1,580	7,872	39,560	13,157	455	1,138	14,751	8,172	3,748	14,099	26,018

平成24年度月別入館者数（利用区分別）

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
4	745	36	414	1,195	61	80	0	141	303	0	57	360
5	1,106	32	645	1,783	31	58	0	89	453	97	516	1,066
6	674	14	352	1,040	49	84	35	168	940	1	1,173	2,114
7	1,467	41	733	2,241	327	0	138	465	808	3	761	1,572
8	2,142	95	962	3,199	115	0	140	255	591	15	168	774
9	967	20	705	1,692	46	0	0	46	472	136	831	1,439
10	1,541	27	1,184	2,752	212	0	122	334	958	0	2,002	2,960
11	1,065	35	678	1,778	59	0	0	59	730	7	528	1,265
12	562	25	429	1,016	52	29	14	95	376	11	241	628
1	661	38	439	1,138	45	0	20	65	473	18	580	1,071
2	649	36	262	947	0	0	0	0	692	6	220	918
3	1,024	59	634	1,717	87	0	52	139	586	24	274	884
計	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051

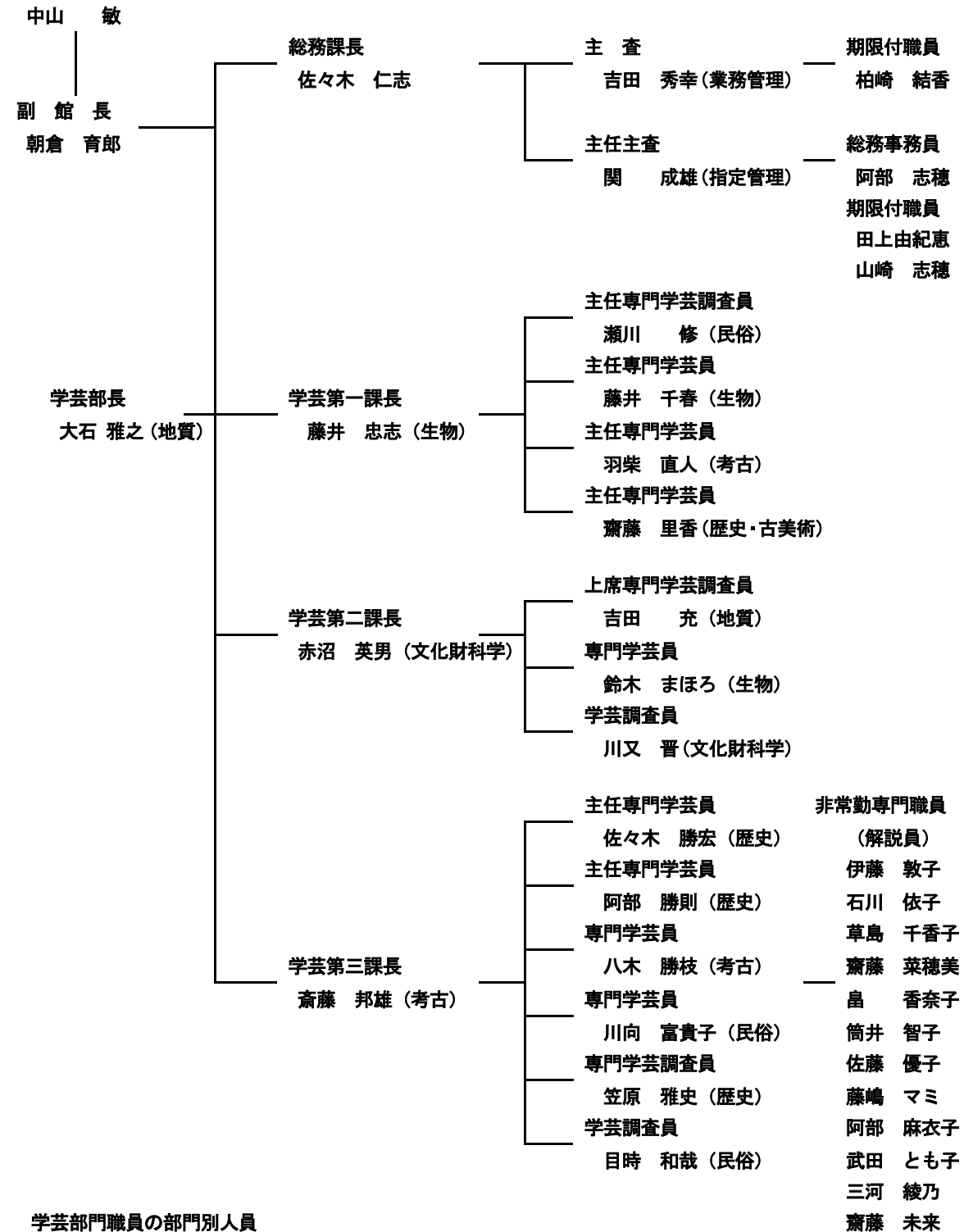
教育普及事業参加人数 15,022人 移動展入館者数 383人

平成24年度総利用者数 52,810人

9. 平成24年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織図

H24. 4. 1

館長（県立博物館館長兼任）



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史	民俗	生物	古美術	文化財科学	計
2人	3人	4人	3人	3人	(1)人	2人	17(1)人

10. 岩手県立博物館使命書

(平成 20 年 3 月 25 日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5 億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史的変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

11. 関係条例・規則等

(1) 博物館条例

昭和55年7月15日条例第41号

(設置)

第1条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第1条の2 博物館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第1条の3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第2条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

第3条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第3項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第3項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第4条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。
- (2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。
- (4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。
- (5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第2条第1項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第3項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。
- (2) 第2条第3項の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他の不正な手段により第2条第1項の許可を受けたとき。
- (4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。
- (5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第3条第1項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第3項」とあり、及び「第2条第3項」とあるのは「第3条第2項において読み替えて準用する第2条第3項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第6条 第2条第1項の許可を受けた者(以下「入館者」という。)は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第7条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

- (1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中

学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。

(2) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者(15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者)、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。

(3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第8条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することがある。

(1) 第5条第1項第4号又は第5号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。

(2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。

(3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第9条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第10条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第11条 この条例の実施に関し、第6条から第9条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
学生	140円	1人につき70円
一般	300円	1人につき140円

備考1 特別な資料を展示した場合において、その資料を閲覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額(以下「特別入館料」という。)を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料(特別入館料を除く。)は、無料とする。

(2) 博物館条例施行規則

昭和55年9月26日

規則第78号

(趣旨)

第1条 この規則は、博物館条例(昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。)の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(領収書)

第2条 条例第6条第1項に規定する入館料の領収書については、岩手県立博物館管理運営規則(昭和55年岩手県教育委員会規則第9号)第4条第2項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

(条例第7条の規則で定める者)

第3条 条例第7条第2号の規則で定める者は、次のとおりとする。

- (1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者(知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児)及びその介護を行う者
- (2) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けて

いる者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児）と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者

- (3) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者

（入館料の免除及び還付）

第4条 条例第7条又は第8条の規定により入館料の免除又は還付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別に定める様式による入館料免除（還付）申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあつては、この限りではない。

- 2 知事は、前項の入館料免除（還付）申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付することを適当と認めるときは、別に定める様式による入館料免除（還付）承認書を申請者に交付するものとする。

附 則（平成21年3月13日規則第7号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則（以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

（3）岩手県立博物館管理運営規則

昭和55年9月26日
教育委員会規則第9号

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手県立博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（休館日）

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の日であつて当該休日に最も近い休日でない日）
- (2) 資料整理日（資料の整理、点検等を行う9月1日から9月10日までの10日間をいう。）
- (3) 12月29日から翌年1月3日まで

2 博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）第1条の2に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、必要があると認めるときは、博物館の館長（以下「博物館長」という。）の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。

（開館時間）

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、午後4時以後は、入館することができない。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

（入館許可の申請）

第4条 条例第2条第1項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

（撮影、貸出等の許可）

第5条 条例第3条第1項の規定による許可を受けようとする者は、資料撮影等許可（変更）申請書（様式第1号）又は資料貸出許可（変更）申請書（様式第2号）を博物館長に提出しなければならない。

2 博物館長は、条例第3条第1項の規定による許可をしたときは、資料撮影等許可書（様式第3号）又は資料貸

出許可書（様式第4号）を交付するものとする。

3 資料の貸出期間は、30日以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。

4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、資料汚損（損傷、亡失）報告書（様式第5号）を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

（汚損等の届出）

第6条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

（協議会の所掌）

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議し、及びこれに関し必要と認める意見を博物館長に述べることができる。

（1）資料の収集、保管、展示等に関すること。

（2）資料の調査研究、利用等に関すること。

（3）その他博物館の運営に関すること。

（会長）

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第9条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（補則）

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則（平成21年3月6日教育委員会規則第2号）

1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。

2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運

営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続きに関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保管する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則（以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。

3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

平成 24 年度岩手県立博物館年報

平成 25 年 5 月 31 日

編 集： 岩 手 県 立 博 物 館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発 行： 公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸 13-1

Tel 019-654-2235